女子青年界第十四巻第六號（毎月一日發行）
大正六年六月一日發行　大正六年五月二十八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便

女子青年界

第十四巻
六月號

要目



新綠の懐しい季節になりました。

ライオン煉齒磨は

携帯便利で――趣味高尚で――、旅行者、有趣味者の熱心歡迎せらるる所でございます。そして

ライオン水齒磨は

此頃の外出歸りや、何となく爽快の感を求める食後 又は夜の就寢前に含嗽に使つて、最も氣分を晴れやかに致します。まことに

輕便有趣且つ愉快な衛生品で

ございます。

女子青年界第十四巻第六號

目次

YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VLM (XIV) JUNE 1917. Numbr 6.

Magic Lantern Slides
a Specialty.
Colored Bromide Postal Cards
(Large collection of pictures of Japanese scenes and customs.)

Y. WATANABE, PHOTOGRAPHER
No. 44 Bentendori, Yokohama.

◎人像撮影
最新式美術的寫眞を調製す

◎出張撮影
遠近不拘精ふ御便利を計り貴需に應ず

◎現像及び燒付
迅速且つ叮嚀に御用命に應ず

横濱市辨天通三丁目四四
渡邊寫眞館

FRAMES, PICTURES, POST CARDS.
OKAMOTO, CHIKYU-DO & CO,
OGAW-MACHI ST. TOKYO, TEL. HONKYOKU- No. 1100.
SOLE AGENTS IN JAPAN
Cosmos Pictures Co. & National Art Co.
New York, U. S. A.

コスモス繪畫會社◎米國◎ナショナルアート會社
日本總代理店
額緣繪畫繪葉書輸出入
岡本地球堂商店
神田區小川町通
振替東京一九七〇番　電話本局千百番

前付五

御用の節は『女子青年界』の廣告で見たと御申添下さい

SUNDAY SCHOOL SUPPLIES.

Peloubet's Select Notes on the International S. S. Lessons	2.50–.12
Gist of the lessons, by Torrey	.55–.06
Tarbell's Teachers' Guide.	2.50–.12
The Lesson Handbook, by Meyer	.55–.06
Berean Leaf Cluster (Picture Rolls, Quarterly) Per Year,	10.00–.48
Berean Cards Per Year,	40–.08

萬國日曜學課(リーフレット)週刊十五組以上郵稅不要
一枚三厘、期刊雜誌萬國日曜學課一ヶ年四回發行

スザンナウエスレー傳、スペンサー女史
元良ヨネ子女史共著……………….25–.06
ハリス夫人傳、山鹿旗之進著……… 1.00–.08
七日間、美山豐子、田中夕風共譯…… 35–.06
歐米女子立身傳、根本正譯………… .40–.06
へれんけらー自叙傳我身の物語…….50–.08
穽より、ミラー原著、伊藤宗輔譯…….30–.06
みあしのあと、セルドン原著、安孫子貞
次郎譯……………………………….55–. 8
戰場の婦人、沖野、吉田共著………….20–.04
家庭清話、堀口翠嶺著………………….30–.04
野百合、碧川企牧男著………………….25–.04
星影、三浦泰一郎著…………………….30–.04
怒るな働け、嘉悅孝子著……………….80–.08
巖の處女、ダヌンツイオ著、知淦譯 1.10–.08
武藏野の一角に立ちて、別所梅之助著
…………………………………… 1.10–.08
(縮刷)何處へ行く、松本雲舟譯……1.10–.08
一日一善、山本瀧之助著……………….65–.08
日々の力、根本正譯、…………ポッケッ
ト形紙貳拾五錢、布四拾錢、皮九拾錢
同　四六版紙參拾五錢、布五拾錢、皮壹圓
日々の基督、津金酬村著………… 1.30–.08
靈交錄、フォスヂック原著、栗原基譯
…………………………………….80–.08
耶蘇の人格、栗原基譯…………………….60–.06
クリスマス講話集、小野兵衞著……….35–.06

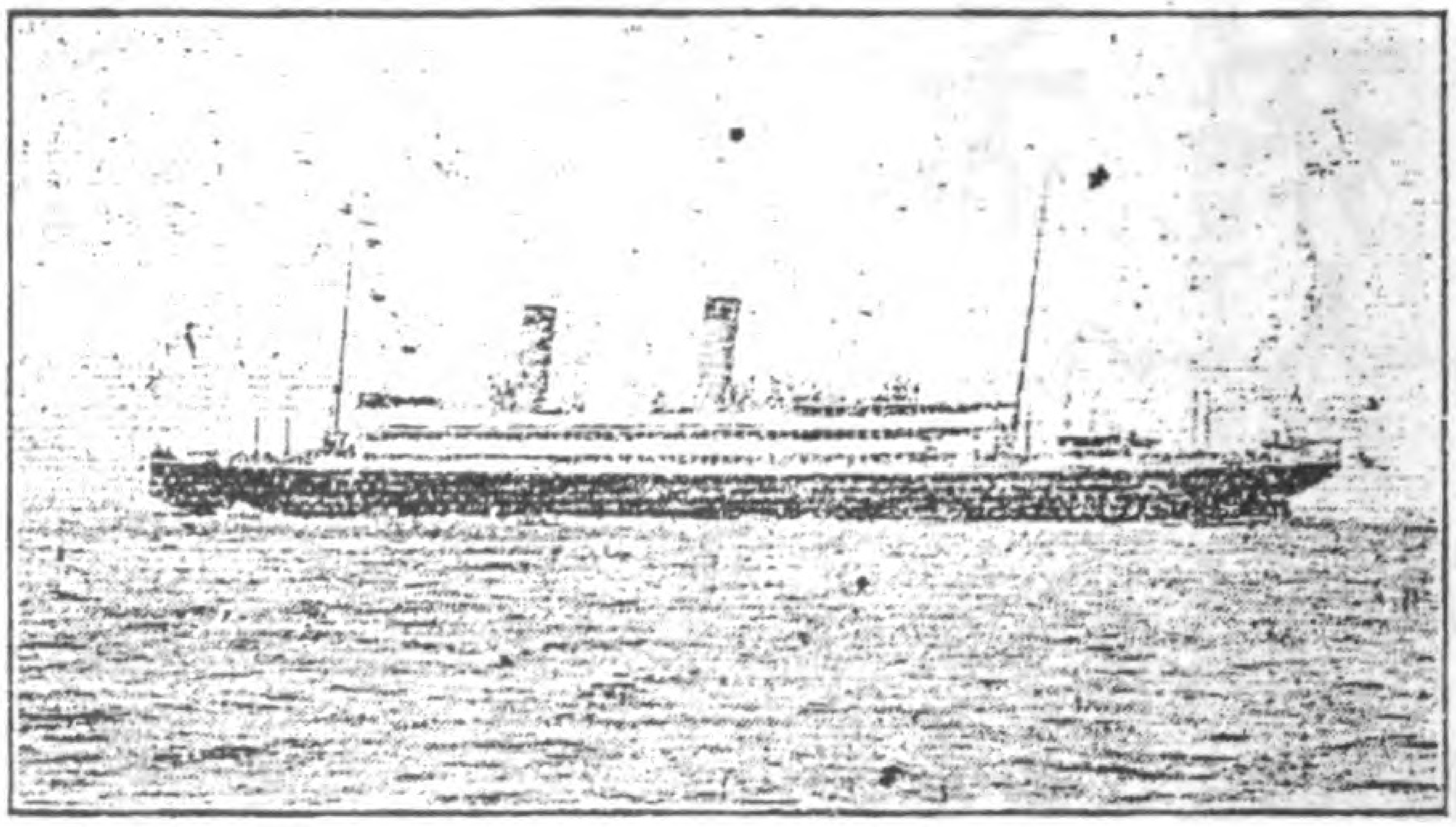
Gospel Story in Art, by John La Farge …………………… 8.25–.20
Life of Jesus of Nazareth, by Hale. …………………… 4.15–.16
Greater Men and Women of the Bible, by Hastings …………… 3.30–.12
Quiet Talks on Prayer, by Gordon …………………… 1.40–.08
Quiet Talks on Service, by Gordon …………………… 1.40–.08
Thirteen Appreciations, by Whyte …………………… 3.30–.08
Second Coming, by Kumme & James …………………… 1.10–.08
Loneliness of Christ, by Kendle .85–.06
Discipline of Prayer (1916)……… .77–.06
Illustrated History of Music, by Lapper …………………… 4.15–.12
A B C of Cooking …………… 1.10–.06
Songs for Quiet Hours, by Plante …………………… 1.10–.08
A French Woman's Notes on the War, by De Pratz …………… 3.30–.12
Advice to a Wife, by Chavasse 55–.08
What a Young Girl ought to Know, Mrs. Wood-Allien …………… 2.20–.12
What a Young Woman ought to Know, Mrs. Wood-allen……… 2.20–.12

PERRY PICTURES sizes range from $5\frac{1}{2}$ X 8 to 19 X 23, prices from 5 sen to Y 4, copies of the world famous paintings done in sepia and in black and white, appropriate for Christmas Gifts.

東京　**教文館**　銀座
（電話京橋二三二）（振替東京一一三五七）

前付六

東洋汽船株式會社



本社　東京市日本橋區通り一丁目（電話四〇八〇、四〇八一番 本局四〇八二）

營業所　横濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一番 四四〇二、四四〇三）

出張所（神戸市京町八三番 香港、キングス、ビルヂング 桑港、マーケット街六二五）

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、五〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

FINE HAND-CROCHETED GOODS
DRAWN WORK, &c.
are made to order at a low price
BY
MRS. KATO'S INSTITUTE
of
FANCY WORK

會員募集

□ドロンウオークの講習は毎週土曜日午後一時より日曜日は午前十時より午後四時迄。

□此先生は長砂夫人、出來ない方でも出來る方でも一人一人に御教授致します。

□此外手ミシン、足ミシンの使用法及隨意御使用。

□又むつかしい編物の編方

□家庭內職としては輸出編物も御世話いたします、お友達と話しながら慈善費や雜誌代が得られます委細は規則書で申上ます

東京九段坂下公園前（九段下停留場より一丁）

外人嗜好編物研究所

加藤咲子

規則書

御入用の方は郵券貳錢を添へて御申込みになれば御送り致します。又九段下電車停留前「英語で商賣」の文房具店エスカ堂にもありますから御覽下さい。

T. YAMAMOTO

EMBROIDERER AND DRESS MAKER

No. 61, Yamashita-cho, Yokohama, Japan

Tel. No. 3998 (Near the Grand and Oriental Hotel.)

EMBROIDERIES
SILKS LINEN AND COTTON CRAPES

READY MADE
Dresses Blouses and Under Wear

Always on hand at Moderate Prices

橫濱市山下町六十一番地

絹物商 山本商店

電話 三九九八番

女子青年界

第十四巻第六號

六月號

大正六年六月一日發行

荒野と濕ひなき地とは樂しみ沙漠は喜びて香紅の花の如くに咲き輝かん。

惡しき者謀略に歩まず、罪人の途に立たず嘲る者の座にすはらぬ者は幸福なり、斯る人はエホバの法を喜びて日も夜もこれを思ふ、斯る人は水流の邊に植えし樹の期に至りて實を結び葉もまた凋まざる如くその爲す處皆榮えん。

我はシャロンの野花、谷の百合花なり。

我イスライルに對しては露の如くならん、彼は百合花の如く花さき、レバノンの如く根を張らん、其枝はひろがり其美麗は橄欖の樹の如くその芬芳はレバノンの如くならん、其蔭に住む者歸り來らん、彼等は穀物の如く活き返り、葡萄樹の如く花咲き、その馨香はレバーンの酒の如くなるべし。

我彼を顧みん、我は蒼翠の松の如し、汝、我より果を得ん。

會説

葉のみの無花果樹

河井道子

緑滴たる初夏の美はしさは春の華美に比して又趣の深いものであります、玆に旅人があり徒歩して非常に疲勞を感じたる場合の如きは爛熳たる櫻の花蔭よりも晝尙暗き森蔭を遥に歡迎する者であります。我々の世渡りにしても凡て順境の時は、陽氣な空氣を樂しみ、何一つ心にかゝる隈もなく嘻々として消光し、浮氣勝になり易いけれど、一朝非運の雲霧が我身にかゝる場合には、啻に快活な華美な社會に慰藉を求めんよりも、寧ろ崇高な思慮深き地味な人々に親睦せん事を欲する者であります。何も陽氣な爽快な人々に重みがないと云ふのではありませぬ、我々の中に快活な空氣を持ち來す友人がなかつたならば、如何に物淋しい事でありませう、然し意味なく根據なき樂天主義者は所謂空元氣の人々で眞個に慰籍奬勵の入用な場合、之を他に與へ得る者ではありませぬ。さればとて靜粛な、落付いた性格が元氣を缺くといふ事も決してありませぬ。眞の勇氣と活氣とは是等の靜かなる人物に多く見る處であります。それで我々が非常な困難や苦痛に遭遇た場合、誰かに是を訴へ、其助力を得て、活路を開かんとする時には誰人に行くでせう、音樂は堪能で、文藝に趣味深き滑稽家を求めるでありませうか、或は又眞面目なる、實着な精神の確固なる先輩や友人に參るでありませうか、勿論後者を選ぶは自然で御

座います。「諫言口に苦し」とは申しますが、我々が眞面目に生きんとする場合は、正直なる忠告を與へる友程有難い者は他に御座いませぬ、此點より考へても我等神を信仰すと稱しつゝある者は人を喜ばすに阿諛追稱を以て爲す如きは元より避くべき事にして何處迄も其人の爲めと思ふ時には、正直に又親切に忠告もし、又助力を與へるべきでありませう、是が即ち人々の困憊を醫する果實といふ物であります、我々は花として喜ばるゝよりも饑えし旅人を養ふ果實となる素養を持たねばなりませぬ。

基督が最早此世を去らるゝ日の切迫した場合、非常な多忙な日々を送られた樣に聖書に書かれてあります、啻に身體に於てお暇がなかつたのみならず、基督の心靈上の苦痛は日に增し人の爲め、世の爲め心痛絶間なく、祈と共に働かれたのであります、最後にエルサレムに上られた時にはマリヤとマルタの住へるベタニヤ村を宿として都に往來されたのであります、彼處にて病める者を癒し、惡魔を追ひ、殺氣滿々たる敵の看視中に群集よりホザナの賞讃の聲を浴びてエルサレムに上り給ひしなど、其疲勞は如何計りなりしかほゞ察する事が出來ます、其日終へて夕暮に再びベタニヤに歸らるゝ時、遙か向うに無花果の木が新綠滴るばかりに通行者の目を喜ばせて居りました、多分基督は終日食事の暇さへもなかつた事でせう、それで如何にも無花果の木を見て御喜びになり、其下に走り行きて、果實をお求めになりましたに、葉のみ繁茂して居て、何もなかつたので基督は其木に向ひ、何時迄も實を結ぶ事あらざれと御呪ひになつた事が福音書に出て居ります、一寸是を見ると如何にも無理な事を基督が要求されて、罪なき木を罰された樣に思ふ人もあるでせうが此記事の前後をよく讀みますと基督の眞意がよく分かります、これよりして我等の習ふべき事が多い中に一つ主立つた敎訓が含まれて居ります。

ユダヤ地方の無花果は葉が青々と繁茂して居るのは果實のある證據だと申します、それ故無花果の時

期ならずとも既に青葉の茂つて居る處を見れば他の木よりか早熟である事を意味するのであります、それで基督が饑え疲れて、夕暮に岩石多き山道を辿つて目をなぐさむる物、耳を喜ばする物の何一つなかつた時に、遥かに果實のある證據を示して居る無花果を御覧になつて喜ばれたのは然あるべき事と思はれます、人間の體質を備へられたエスが饑餓を感じ給ふたのは當然の事で、それに食を求め給ふも不思議な事はありませぬ、然してこゝに基督は此の本其物を呪はれたといふよりも共にありし弟子達に實物教授をされたと見るが至當であります、此の木の如く一見如何にも目立ち、名聲高く、學識備はり地位もあり信仰ありと見做さるゝ人物にして其陰に來る時は只葉のみにして人を養ふに足る果實が一もないといふは僞善の絶頂である、斯る者は神の審判にあづからざるを得ない者で、生存して居て反つて害があるから寧ろ是を除くにしかずといふ深き教訓を與へられたる者ではありますまいか。

基督教信徒はよい意味に於て早熟であるべきでせう即他人の未だ同情せざる處に早くより同情を寄せ活動なき場所に活動を起す開拓者であります、歴史を繙けば教育の制度、社會の改善家庭の聖化、個人の發展等は概して基督者個人或は團體の力に依つて起つたものであります、それかといふて特に賞讃すべき者でもありませぬ、信徒たる者は基督にならへば如何しても着眼點が高く、其區域が廣う御座いますから、他よりも先に實行するのも早い筈であります。或時一人の高官を訪問致しました、彼は信仰に入りましてからまだ日も淺いので熱心に聖書及びニコルの基督傳を閲讀で居りました「實に近頃聖書や基督傳より得る智識は新しい發見であります、然し私の今得た位の事は日曜學校の小さい生徒が夙に知つて居る事であります、そして見ると我々は神の事に就ては實に智識の幼稚な者であります」と告白致しました、此等を押しても早熟といふ意味が分かりませう。

讀者中、學校に在らるゝ信者姉妹は他の姉妹よりよき意味に於て早熟の筈であります、僞を惡み、誠を喜び、人の弱點をあざけらず、其長所に注目し、己をつめて他を救ひ、人の罪を己に代つて負うといふ勝れた處がなければなりませぬ、斯る人々に對して同情、慰籍、忠告、友誼、助力を求める者が慥かに多い事でありませう、然るに若し此場合何の役にも立たぬとしたならば此姉妹は、葉のみ繁茂して果實のない無花果の木であります、彼は聖書も讀み、祈禱もなし奬勵の言葉もはき、文章をよくし、親切らしく見えて居りませうが、愈々其人に接すれば接する程つまらない意氣地なき人物である事が分かり或は全然的の僞善者で外見のみで人を喜ばせんとする淺猿しき者かも知れませぬ、斯る人は道の爲めの邪魔者であります、ない方が寧ろ世の爲めに幸福であります。斯る意味を弟子達に敎へんとし給ふた基督は無花果の木を以て實物敎授を施されたのであります。

今や夏の初で自然界がいよ〳〵趣味深くなつて參ります。我々は果樹の茂る樣を見、或は虫づく樣子を見、日蔭の發育あしき姿を眺め、中夏、秋季の將來を察してよき實物敎育をうける事が出來ます。

我等は祈禱と聖靈の力たる日光や滋養物を得て、愈々繁茂し、疲勞せし人々を憩はせ、且彼等を養ひ得る處の者になる樣につとめ度いと思ひます。

『イエス都城を出でベタニヤに往き、そらに宿れり、翌朝、都城へ歸る時飢えければ路の傍なる一の無花果の樹を見て其處に來りしに葉の外に何も見えざりければ、『今より後永久も實を結ぶ事を得ざれ』と云ひ給ひければ無花果立刻に枯れぬ。』

（馬太廿一〇一六――一九）



碎けたる靈魂

詩篇第五十二篇を讀んで見ると、ダビデが非常に自分の罪科を悔ひて居る事が書いてある。又啻に罪を悔悟したのみならず、反つて深い、清い、美しい心を以て神に對した事を示して居る。『神の求め給ふ物は碎けたる靈魂なり』とあるが、この碎けたる靈魂といふのは人の心の最も深い處にある柔しい、美はしい精神の狀態である。心が碎けて居るといふのは啻に心が柔しく謙遜になつて居るといふ計りでなく、神の恩惠がよく了解せらるゝの心である。神の恩惠が良く人心に了解せらるゝのは最も柔しい、美しい人心の一部に於てゞある。此美しい心の狀態を其當時の最も偉大なる、力ある英雄が示したのが此詩篇第五十二篇である。

本郷教會牧師　海老名彈正

ダビデは其時代の英雄であつて、彼の右に出づる將軍はなかつたのである。此勇ましい、荒くれた軍人の心の奧底に斯くも美しい、柔しいものがあつた。この情は如何にして起つて來たかといふに、彼は自己が非常に罪人であるといふ事を自覺し、且悔悟した時である。彼は罪を犯した、よく英雄にありがちな罪を彼は犯したのである。若し彼に世間普通の人以上の理想がなかつたならば、かゝる過失は有りふれた物として自分から彼は寛容したのであらう。日本に於ても秀吉の如き英雄は斯る罪は屢々犯しダビデ以上の不德な事をしたのであるが、嘗て秀吉が非常に前非を悔ひて、自分の罪に對して非常に心を痛めたといふ事は聞かない。然るに英雄として

は秀吉と同等である若しくは以上であるダビデが非常な悔悟を示して居るのは如何なる譯であるか、彼は神を知つて居たからである。彼は平常神と深い關係を持つて居たといふ事が解かるのである。彼は罪を犯して後當時の豫言者ナタンから其罪を指摘され時に非常に悔ひて、其罪を嘆じた。彼が心から、其罪を神の前に悔ゆる事が出來たのは、彼は神との間に深い宗敎的交渉があつて、神に對しては柔しい、美しい心を持つて居たといふ事が分かる。

如何なる英雄、豪傑でも母を思はざる者はない、母に對しては如何なる荒武者も柔しい他の人に對して持つ事の出來ない心が起つて來る。此親を思ふの至誠は、或人が云ふたが、肉情ではない、肉情を越えた靈性から湧いて來る肉情以上のものであると。近頃佛國の戰場で前後して戰死した兄弟の話が出てゐた、二人とも英國人で立派な人であつて、兄は廿七歲、弟は廿四歲、兄弟の間が非常に親しいので、丁度雙兒の樣に見えたそうである、兄は既に軍人となつて居た。兩人とも非常な親孝行者で、兄は殊更にそうであつた、自分の讀む本は小說でも雜誌でも必ず母の前でよむ、そして母に聞いて貰ふのを何よりの樂しみとして居ると云ふ風、他所に旅行して居る時でも、一日中にありふれた事までも細々と日記に認めて盡く之を母の許に送る、手紙も毎日書くといふ樣な親思ひであつた、此母親を思ふ兩人の間には常に他に見られない美しい眞情が湧いて居たのであつた。斯る深い親交を持つた兄弟が一度母に對して心を痛める樣な事を爲したとしたならば如何に心が碎けて仕舞ふでせう。此親子の間の親交の樣に生ける天地の神と親交して居る人の心の中は柔しいもので、其人が一朝にして神の心を痛めたと感じた時には如何に悲しく思ふであらう。此詩篇の五十一篇を見ると如何にダビデが神と深い交渉を持つて居たかゞ察せられる。神との關係が疎なる者には斯る歌は唱へない。

碎けたる心は失望、落膽して居る樣に見えるが、

一面に於て非常に强い。勇ましい希望に滿ちたものである「我を淸め給へ、さらば我淨まらん、我を洗ひ給へ、さらば我雪よりも白からん」如何に望に滿ちて居るでせう、自己の失敗に自暴自棄に陷るのではない、充分に悔いて神に赦を願つた時には更に一層元氣が出て勇氣に滿ちて來るのである。

先程御話した兩人の兄弟、兄は六月廿六日に戰死し、弟は七月卅日に戰死した。兄は再び立つ事の出來ない重傷を負ふて病院に入院した時に、弟は兄の病院に訪れて共に語つた。此二人は非常に悲しんだろうと思うだらうが實は少しも悲しまなかつた、勇ましい負傷は反つて幾分の慰めであつた、弟は兄の許を辭してから兄の訃に接した時に、彼は云つた、「兄は人生を全うしたのだ、人生の目的を完ふし、人生の意義を明にした、死といふものは誠に薄弱な城壁である、我々は日々此城壁を破りつゝあるのである、誠に彼世と此世との間は薄弱な城壁に過ぎない」と、彼は一ケ月後れて兄の後を追ふた、彼は二人の息子に先立たれる母の心を思ふて悲慘に思ふ筈であるが別に嘆かなかつたのは彼は常に母が信仰深い婦人であつて、神との靈交が深い人であり、自分の子供が人生の意義を明かにする爲めに戰場に出て戰死したのを見て、深く天意のある處を悟り、徒に悲嘆の涙にくれないといふ事を知つて居たからである。此子息等は母親の心をよく了解して居たのである。

我々は强い人に勇氣付けられる時にも强くなるがそれよりも弱い人に勵まされる時ほど强くなる事はない、此兩人に取つては母親の諫め、勸め程力ある物はなかつたのであつた。

又親としては弱い子供に諫め、勵まされる事ほど力强く感ずる事はない。オリゲネスの父リオネダスが牢屋に縛られた時オリゲネスは僅に十六歳であつた、彼は父に手紙を書いた、神の爲め、眞理の爲めに跡に心を殘さずにいさぎよく盡して下さい、弟等は自分がきつと養ふからといふて父に送つ

た、彼の父は此手紙に依つて勵まされ心を殘す事なく福音の爲めに死んだのであつた。柔しい母親に勵まされる子供程强い者はないのである、至誠のある時には最も柔しい者に最も大なる力がある、柔しい眞情のある處には其處に犯すべからざる力がある、人は眞理の前には强い者である、碎けたる心の中には斯の如き柔しいものが存するのである、之を神が喜び給ふのである。

基督信者はよく罪人〳〵といふ、他人がいやに思ふ程に罪を感ずる、どうしてかうも罪〳〵といふのかといふに、基督信者は人間といふ者を非常に尊い者として居るからである、又自分の尊敬して居る神は如何に崇嚴な方であるかといふ事も知つて居る、之に對する責任は如何に重いものであるかといふ事も知つて居る、舊約聖書に就て云ふて見ると、彼のアダムとエバの話、神樣が食ふなといふた木の實を食べた、それが爲め樂園から追はれて子々孫々罪人となるといふ話、これ程の悲劇が又とあらうか、實に殘酷だと思ふ程である、我々人情から見て、例へば親の云ふ事を聞かないで食ふなといふた菓子一個を食べた、それが爲めに勘當されて再び親の子と爲る事が出來ないといふのは實に悲慘である。今日迄の舊約聖書を解釋した學者は皆斯う解釋したのであつた。一面非常な殘酷な解釋であるが、この解釋の中には、如何に神が壯嚴な方であるか、自己が如何に責任ある者であるか、例へ木の實一個でも神之を許し給はぬならば手を觸れない、爲せと命ぜられた事は如何に苦しくとも之を爲す、倫理の方則の根底は自己を重く見るといふ事である、自分の了見でした事は何處迄も責任を持つ、例へば政治上に於ても政府が十錢といへども無理に取らうといふ時には抵抗する、また自己の當然拂ふべきものは、身代限をしても之を拂はなければならない、即ち金高ではない自己の權利である處を重ずるといふ强いものが存して居るのである、自分が罪を犯した、人に誘はれたから爲したと云譯をする事は出來ない、何となれ

ば自己には罪惡に對して否定すべき能力を持つて居る、又善行は之をなすべき力を持つて居るのである。そこでカントの様な基督教哲學者が出て來るのである「我爲さゞるべからず、我なし得る故に」自己の過失を人に被する事は出來ないのである、それ程に自己といふ者を重んずる、自己が罪人であると感ずる時には非常に悲痛し、悔ゆるのである、そして神から「汝の罪ゆるされたり」と云ふ言葉を聞く時には又非常に強くなるのである。ダビデの如き人が碎けたる靈にて神のゆるしを乞ひたる後は非常に勇悍なる者となるのである、我々は自己の罪を悔ひ、眞實の碎けたる靈をもつて救を求めねばならぬのである。（文責記者）

約翰傳の特色（一）

神學博士　オルトマン

新約の四福音書を見るに各章共に異る特色のある中此約翰傳は他に比して其全體の分解に及ぶのみならず大いに内容の思想及記者の目的を異にず、故に四福音書を研究せんと思へば自然、約翰傳の研究法は多少他の三書と違ふ、其點よりして私は第一に約翰傳の特色第二に其研究法を述べんとす。

四福音書には各々表號的の説明或は名がある、昔エゼキヤがガリラヤのキバル邊に四面を有てる奇妙な獸を見たる事あり、約翰もパトマス島に流されし時此獸即ち人、牛、獅子、鷲の顔を有てるものを見たりといふ、其顔を四福音書の特色に從ひ各々宛嵌ると、人を馬太傳、牛を馬可傳、獅子を路加傳次に鷲を

約翰傳に適用てゝ、其內約翰傳を鷲に譬る事に於ては誰しも躊躇せぬ、何故なれば其特色は第一、鷲くべき力あるもの凡て他の鳥より高く大空に舞上るもの、第二、眼の大力、即ち遠くをも視通す事の出來る事等に依る爲なり、即ち特別主に愛され主の懷にあつた約翰は他の弟子よりもエスの胸中を視透し基督の地上の指命を實際に了解し主の王國を理解せしは約翰にして彼は其點より他に比し深く且高し、第二に約翰傳は他の三卷よりも個人を論ず、第一章一節より十三章までの事柄を視るに主の敎訓又奇蹟は殆んど殘らず個人の事に關して居る、先第一バプテスマの約翰が中心、アンデレ、ピリポ、ナタナエル等第一章の個人的中心である、第二章の中心たるものはカナの婚筵に於けるエスの母マリヤ、第三章ニコデモ、第四章サマリヤの女、第五章ベテスダ池に於ける病者、第六章ピリポとアンデレ、第七、八章、常に基督に對し譏きしパリサイ人、及ユダヤ人の長、第九章生來の瞽、第十章、常にエスを殺さんとするユダ、第十一章ラザロ、第十二章ピリポ、アンデレを通じエスを見んと願ひし希人、第十三章、イスカリオテのユダ。斯の如く各章に於て中心は一個人にてエスに付何かを表し、當時の人々が如何にエスを見しかとふ事に付貢献する處がある。一方には一歩一歩と進みエスを神の子、救主なる事を知り他方には怨の的、ユダの反感が強くなる、この比較よりして約翰はエスに對し證をなすものにして是第三の特色たり。第一バプテスマの約翰、光又基督自身に付ての證をなす記事、即ち約翰傳は裁判所の如きものにて其の證人は悉く少年時代に呼出され基督に付證をなす、其證人には明白、寛大、大膽な者もあれば又曖昧、卑劣なる者も現はる、被告人は即ちエス基督、告發人はパリサイ人と學者にて其內に檢事あり、被告辯護人は約翰、民事上の裁判官はユダヤ人の祭司の長なり、基督に付て考ふる人々は異なりし說を有つ聽衆なり、此審判はパリサイ人を遣はし約翰に付尋ねたる時より始まり主の一生涯中繼續す、否十字架につ

けられたる後迄續く第一に呼び出されたるはアリマタヤのヨセフ及ニコデモなり、人々を恐れ公に告白出來ざりし彼は最後に主の屍に對し尊き葬をなし其證を全ふす。

第四の特色は基督の行はれし奇蹟の少數なる事なり、三原書には多くの人を癒し給ふた記事多きが約翰傳には只四つ記載さるのみ、即ち四章の、或カペナウンの大臣の子を癒せし事、第五章のベテスダ池に臥ゐたる病者を癒せし事、第九章の生來瞽を開かしめし事、十一章のラザロを墓より甦せし事等、此四つは個人に對する奇蹟にして他の三卷になし。多くの人に食を與へし事、荒れし海波を鎭めし等は他にもあれど要するに個人に對する奇蹟にして而も其卷書に無き事の方多し、これ實に約翰傳の特色なり其上奇蹟を記しゝ目的を異にす、他の三書は奇蹟其の物を目的とし其物を大切に見れど約翰の記しゝ奇蹟の大目的は其物にあらで關係を有する個人にあり、例へばカナの婚筵にてイエスの母其僕等に「彼が汝等に命ずる所の事を行よ」(第二章參照)と曰ふこれ其中心なり、又大臣の子病に罹りし時彼曰ふ、「主よ我子の死ざる先に下り給へ」(第四章)と、三十八年病みたる者の癒されし時イエス曰けるは「起よ床を取て歩め」(第五章)と、生來の瞽パリサイ人に對し「其を洗て見る事を得たり」(第九章)と、又ラザロの姉マルタ曰ふ「主よ此所に在せしならば我兄弟は死ざりしものを」と(十一章)イエス、ペテロに對し「主知らざる所なし我汝を愛する事は汝知り」(第廿一章)と曰ひ給ふ此等により如何に約翰傳の個人的なるかを窺はる、又其中にもエス自身が已の奇蹟を世に價あるものなるを云表す事は約翰傳のみ、即ち約翰は主の教を奇蹟に優りし價あるものとす、然るに他の福音書は其感なく奇蹟の價を第二とす。

第五の特色は主の譬の他卷に多くあれど約翰傳に無き事なり、他卷にていふ意義の譬と異り直接に表はす「我は善牧者なり」「我は眞の葡萄樹汝は其枝なり」等は適例なり、何故其違あるかといふにそは約

翰の特別の性質を目的より來る、他巻の如くに基督三十年の生涯を順序よく歴史的に書くにあらず基督自身を表示す、其目的とは約翰傳二十章卅一節にあり、次に約翰傳の他巻に比し奥妙、神秘なる。これ何所より出るかといふに決して外形よりにあらずエスの個人々に對して敎へられたる眞理に基く即ち深き敎訓の多くあるに依る、第一エスキリストの神の子なる事に付敎へたる處多きは約翰傳の特質なり、其根本理由二あり、一約翰の性質神靈的にして靈の事を理解するの力大なり、二他巻は約翰傳より廿乃至卅年以前に出來しものとすれば其時は未だ基督の人格、性質、又神なるや人なるや等は問題外なり然るに約翰の時代には種々の事柄敎會内外に於て問題となり、從つて三巻は人格の問題にあらず只基督の歴史的生涯を記するのみで約翰は此時初めて論題となり基督の人格を明白に固意に論ぜり、自然に出でし間接の證なり、此所に神の御攝理のある事を考ふべし

要するに約翰傳の特色は一其思想深き事、二個人論、三基督に對し證をなす、四基督の奇蹟の少なき事、五三巻福音書にて云ふ譬の無き事、六神の子なる攝理の明白等にして次に述ぶる研究法に大なる關係あり。（婦人傳道會社修養會に於ける講演大略、エヌ子）

俳句

大森居猿男

歌枕見に出て旅の夏近し
春の池水漲りて物のかげ
夏の夜や問屋場の灯に人の聲
夏の露木賊の節に光りけり
御秘藏の鶯籠に老を啼く
端近く猿を愛して夏書哉

婦人の自覺

孤峯子

或私の知人が妻帶をしようとして頻りに探して居りますがどうしても見付かりません、或時他所ながらの見合の積で或婦人の會合に其人も行つて歸つて來てからの述懷談に「どうしても適當なのが見當らない、今日見て來た婦人の中に成程美人は澤山あるが、誰も彼も皆白粉をはげん計りに塗つて居て丸で人形の樣だ、見て樂しむには宜しいかも知れないが、一家の主婦として、將自分の片腕として、家事萬端を任せるには餘りに心許ない」といふて居ました。私は勿論人は見掛け計りで計る事は出來ない、表面は柔弱に人形の樣に見えても中々賢女のある事も知つて居ますが、概して人は一目見れば大抵其人の趣味嗜好が察せられます、故に凡そ如何なる性質であるか位は分かります。

今日我國の婦人は太平の餘波とでも云ひませうか一般に華美に流れ、學問、技藝に心を用ゐるといふよりも寧ろ社交とか化粧とかいふ方面にのみ心を碎いて居る樣に見えます、成程社交は人間と生れ、女子と生れた私共に取つて本當に大切なる事でありますが、然し交際は徒らに衣服を飾り、化粧に身をやつすといふのではありませぬ、交際は人と人とが互に親しみ向上し樣といふのが目的ですから私共は先づ第一に心性を磨かなければなりませぬ、心のない上面の御世辭の云ひ合ひが何で本當の交際になりませう、交際は心と心の結び合ひでありますから心を磨き德を建てる事を以て第一としなければなりま

せぬ徒らに衣服の競爭では反つて非常な有害なものとなります。

我國太平の逸樂にふける婦人から目を轉じて歐洲戰亂地に於ける婦女子を見ますと、私共は慄然として覺めなければなりませぬ。今や交戰國各地に於ては壯丁の戰場に臨めるより凡ての工場、製造所は皆女子の手に移り女子は男子と同樣に働かねばならぬ地位に立つて居るのであります、去る十一日の夕、遙々米國より來れるスペンサー女史とボイス女史を迎へて女子青年會は神田會館にて小宴を張りましたが、兩女史は此度露國の革命に際し、露國婦女子の爲めに働かんとて非常なる勇氣を以て命掛けにて女子青年會に對する神よりの使命の爲めに赴かるゝのであります、如何なる危險が女史等を彼地で待つて居るでせう、私は其雄健な決心を見て只感嘆するの外はありませぬ。私共只徒らに華美をのみ競つては居られないではありませぬか。

一家の發展は夫のみの力でなし得ず、必ず主婦の力を要する如く一國の發達も男女協力しなければ決して遂げらるゝものではないとは誰れも口にする事であります。然し世間では女子に如何なる對度を取つて居るでせうか、女子なるが故に、嫁する者なるが故に凡て男子とは一段と低く見られて居ります、第一に敎育に就ても男子と女子とは非常な差があります、今日の女學校卒業生と中學校卒業生とは同じ年限の間勉强したにも拘はらず其學力の差は非常なものであります、「お前は御嫁に行くのだから」と家庭からして女子の敎育は殆んど等閑に附して居ります、寧ろそれよりも裁縫とか料理とかを勉强させる樣な傾向があります、私は裁縫、料理の稽古は不必要だとは申しませぬが然し一體學問は何の爲にするのでせう、人間として價値ある者にせんが爲の學問ではないでせうか、若し其精神でする學問であるとすれば、學問に男子女子の區別を付る必要はないと思ひます、男子も人間である如く女子も人間として神から造られたものであります、男子なるが故に眞

面目に勉強しなければならぬ、女子だから裁縫、料理を主として學問は二の次にしてもよいとは誠におかしな話でありますまいか、私共女子は大に醒めなければなりませぬ、「女學校の目的は良妻賢母を造るに在り」と申します、男子教育の目的は良夫賢父を造る者であると申しますが、一體良妻賢母とは如何なる者でせうか、夫が放蕩者にならぬ様に氣嫌氣褄を取り、子供の乳母の様に子守をし、一日臺所に働いて、おとなしく家に引込んで居る事が良妻賢母なのでせうか、我儘な夫にも妻なるが故に御無理御尤もと屈從し、男子なるが故に我子にも我儘を許すと云ふのが良妻賢母と云ふなら、私は今日の女學校教育は愚妻愚母主義だといつた方が宜しいと思ひます

　人生の目的は男女を問はず神から示された道を人間として途る事であります、男子のみが人間とし生き、女子は男子の手足となつて働く隷屬したものであるとは神様は仰せられませんでした。女子も男子と同様良妻賢母となる前に先づ人間として神の御心に叶ふた者とならねばなりませぬ人間として生きるべき道を教へないで何で良妻賢母となれませう、人間として生きるに必要なる學問を授ける事が人妻として必要な事を教へるよりも以上に大切なる事は明瞭な事と思ひます。

　先程申上げました私の知人を始め、世間の男子は一様に「今の女學校卒業生は何にも役に立たぬ」と申します、私は此等の男子に向つて、女學生を攻撃する前に先づ女學校及女學生の家庭の現狀を御覧なさいと注意致します、家庭及學校に於て男子に隷屬する様に教育されて來た婦人に男子と同等な力を有し其片腕として要求する事が出來ませうか、之は種をまかないで芽が出る様にと祈ると同様であります。

　私は女子も男子と同様に高等教育を授けて然るべきものと思ひます、復雜なる社會の荒波を乗り切つて行かふといふ男子の背後には之に力を與へる女子が男子をして何等思ひ勞ひなく充分に社會の舞臺にて力を延ばし得る様にしなければなりませぬ、凡

て偉大なる事業は準備なしで出來る物ではありませぬ、戰爭に出るにしても無暗に出て行つては敗れます、戰鬪準備は一番大切です、家を建築するにしても設計が大切です、女子は家に在りて參謀となり技師となる必要があると思ひます、それには無學な世間見ずな高等下女を以つて任じて居る者に何で此の大役が務まりませう、今日の女學校は高等下女の養成所です、男子と同樣に此の世に人間として生れた女子而も男子に重大なる助力を與ふべき女子に高等教育を授けなくともよいといふのは當を得ませぬ、私は男子と同樣女子も人間である事を主張する、家庭に於ける責任は、男子の社會に於ける責任と同樣、寧ろそれ以上に重大なものである事を高唱する、何となれば第二の國民は家庭より出づるのであつて、大學者大宗教家も皆母より生れるのである、無教育な愚かな母に賢なる子供を望むのは間違である。

私は決して獨身論者ではない、寧ろ男女は結婚に依つて一體となるべき者である事を主張する者であるが、女子も男子と同樣高等普通教育以上に職業教育を必要と思ふ、今日の交戰諸國に於ては男子が戰場に出でた故女子の力に待つ事が如何に多いか、例へ戰爭ならずとも妻として、二三人の子供と共に夫に先立たれた場合には、若し資産なき時は如何に致しませう、明日より困らなければなりませぬ、かゝる場合に妻たる者が相當の學識ある人であつた時には少しもうろたへず、夫の名をはづかしめず立派に子女を教育して行く事が出來るでせう、斯る點からいふても高等普通教育以上に職業教育は女子にも必要だと思ひます。

もう少し世間の人が女子といふ者を了解し、無暗に屈伏せしめず、男子と同樣に教育の自由を與へ、人としての向上發展を計らしめたならば、社會の改良は云はずして行はれ、國家社會の爲め、廣くは世界人類の爲め非常に幸福な事と思ひます。

今日女子の高等教育に就ては共に其必要を認め種

々努力して下さる先輩の少數は御座いますが、本人なる女子が自覺を致しませんではいくら此等の方々が骨を折つて下すつても何にもなりませぬ、只今は粉黛美服にむなしく春の日を暮すの時ではありませぬ、私共は等しく自己の向上發展を計るの時ではありますまいか。

良妻賢母主義

岡田文相の女子教育談

（五月十二日大阪每日新聞所載）

高等女學校の精神教育に就ては教育家の等しく苦心して居る處だか是は大問題であつて、手短に言ふ事は困難である。元來女子が如何なる誘惑因難にも打勝つ程の確乎たる精神を涵養するには宗教の必要もあるが教育家は宗教の力を假らずして、一人前の人間を仕立て上げなくてはならぬ、私は現に社會に於ける一般女子教育は高等女學校程度で滿足してよいと思つて居る、何故なれば、餘り學校に居ては子女の生産力を減ずる虞があるからである、然し尙現時の高等女學校以上のものを設くるならば、女子が良妻賢母としての任務を果すに必要な智能を補ふ目的で高等普通教育の機關たるべきものを選ばねばならぬ女子の爲めに專門職業學校といふ樣な特種の學校を私設するはよいが官設にする事は不可能の事である、歐洲では職業教育が盛んであるが、我國古來の風習は女子に獨立の職業を取らせない事となつて居る、是は歐洲に比して日本の美風とする所であるから、今後尙此風習を持續したいと思ふ、將來我國に於ても世界の大勢から經濟上女子に獨立の職業を取らせなければならぬ樣になるか如何かそれは分らないが此事は歐洲でも己を得ない經濟上の必要から來たもので決して理想では無いのである、我國に於て之を理想とすべき價値あるものとすれば、さう

いふ事も準備する必要もあるが理想とすべきでないものに對し準備をする事は要らぬ、私は我國に於ては成るべく斯樣な現象を必要と感ずる時代の來ぬ樣に今から準備したいと考へて居る位である云々。

時鳥に

オーズオース作
あい子譯

おゝ快活な新來者！　曾て私は汝の聲を聞いた、
今又聞いて、私の胸が躍る、
おゝ時鳥！　私は汝を鳥と呼ばうか、
否それよりも、さまよふ聲と呼ばうか？

綠の野邊に横臥して、
私は汝の名乘る二聲を聞いた、
遠くも近くの樣に、
空中一ぱいに擴がる樣に思はれる。

春日長閑に、花咲く谷には
汝の聲は只無意味なものとも聞え樣
けれど、汝の聲は私には
まぼろしの物語の樣に聞える

心の底から私は汝を歡迎する、春の愛鳥よ
どうしても汝は鳥とは思へない、
姿の見えない物、
一聲、はた神秘といはうか、

私の少年時代に耳傾けた其聲、
幾度か藪や、樹や、空に
此處、彼處
尋ね求めた、その叫び。

汝を尋ねて幾度か、
森林や、野原を逍遙つた、
而も未だ滿されぬ希望、憧憬るゝ

未だ見ぬ愛人である。
聲のみは今も聞く
　野原に横はつて、汝の聲を聞く
私の心に再び黄金時代が
幻の様にうつゝて來る迄

おゝ惠まれし鳥よ！　我々が踏む此地上が再び
胡蝶舞ふ　夢幻の國の様に見えて來る
これこそ、汝にふさはしき
　　すまゐである。

灯火のつく頃

富山芽生

如更月のある土曜の午後に、私は澁谷に住める友を尋ねた。生憎とその人は留守であつたので暫く待合せたが歸らない。

友は私より二つ三つ年下であるけれど、深い信念と優しい心情に裕かな人で、私のいつも焦慮せる愚かしい心は其の人に會ひさへすれば事々しく訴へないでも、和げられ沈靜を與へられるのであつた。此時も私はあれこれと友の智惠を期待して居たので、留守といふ事はひどく私を落膽させた。而して私はその家を殘念そうに顧りみながら、歸途を傳染病研究所の裏手の木柵に添ふた雷神山の方にとつた。

雷神山―そこから見渡す澁谷は私に、涙ぐましい哀愁の情を唆るのであつた。見上る計り大きい欅の梢が空で烟つたやうに、微細く分れてゐる所に寒い星か瞬いて、丘や谷の間を點綴した雜木がくれの家々には、もう灯火がはいつて障子が黄色く映つてゐる。而して、最早その屋上を渡つて塒に急ぐ一羽の鳥の影すら見あたらない。たゞ空も地も濃い紫に融解されて香の高い空氣が滿ち／＼てゐる。私は深く息を吸うて輕く胸を叩いて見た。丁度魚が水面にずうつと浮き上つて來て喜ばしそうに鰭を振る樣な氣

持ちで。けれど私のこの快活な氣分はもの丶五分と續かない中に、さま〲の思ひにかき亂されて仕舞つてゐた。

「私は幸ひにも今宵歸るべき家はある。明日執るべき職務もある。然し私のそれ等は明日と云ふ明日どんなに變るか知れない—殊にそうした境遇に自分は在る。そう思ふと私は多くの放浪者が經驗する、孤獨と不安と恐怖を感ぜずにゐられない。而してその心は又、故鄕に殘つて居る父母が近頃ある事件について、心を痛めてゐる、それを私は子として、是非とも適當に處置し、慰藉しなければ濟まないにも關らず、如何する事も出來ない、切ない情がもつれ合つて不覺にも淚がこぼれるのであつた。あゝ私は餘に悲慘な經路を辿るからであらうか、このやうな夕は一しほ身にしみて人生の傷ましさが味はるゝのであつた。私は人通りのないを幸ひもう大聲でもつて讚美歌を歌つた。

ゆふ日はかくれて　みちははるけし
ゆくすゑいかにと　おもひぞわづらふ
わが主よこよひも　ともにゐまして
さびしきこのみを　はぐゝみたまへ。

* * * *

松平ヶ原の前へ出る曲角にある、楠の蔭から離れた私は、もう驚いてあやうく聲が出そうになつた。誰も居ないと心長閑に歌つてたものが不意に二三間先の薄闇の中を黑い服裝の人が、こちらに來てゐるのであつた。而して夜は私に男子であるかそれとも女子であるか容易く示してくれない。

私は、はしたない事をしたものだ、と默つて仕舞つてどんな人であらうかと、ぢつと目を見張つた。すぐと私は再び喜びの内に驚かされた。それは若い西洋婦人が靴音輕くいかにも快活な姿で、私の目前に現れたのであつた。やつとすれ〲になつた時二三冊本を抱へて來るのが見えた。

「こんな夕方此處を通られる西洋の方は、香蘭女學校の方かそれとも外に、一二軒この丘に住はれて居

られる方達の一人であらう。孰れにしてもこの邊で目立つ宏大な建物―香蘭かあの屋根に十字架がある會堂のやうな家に這入られるに違いない。』

と、私は斯う推察した。

二人は顔を見透した。而して御互に一寸顧みがちに行き過ぎた。その瞬間に私は若し私の無禮を許されるならば『主にある友よ。』と云つて、手を取りたかつた。それ程に私はこの未知のサマリヤ人から、或物をうけた私の謝意を表したかつたのであつた。

『あゝあなたは遙々故國をあとに、この異域に神に對する職責をつくされて御出なさる……こんな邊鄙な所を今頃御通りなさる迄よく御働きになつて入來る、ほんとに殊勝なお志と雄々しいお姿を持つてゐられる、そしてお見掛け申せば未だ私よりお若いらしい……それだのに私はまあどうで御座いませう。今の今迄呟いたり憂へたり悶へたり、何といふお恥かしいことで御座いませうか。あゝ私は悔恨の念に襲はれました。私は自分の人生をあなたの様に怯まず恐れず、神と倶に進む様努力致しませう。私はあなたの心奥に入來るキリストを讃美いたします。私は、あはれな私の魂が強く彈いたこの音を完全に彼の方の御耳に入れたい。

途上にて行逢ふ人々に對する、世間的の態度を私は此時悲しく思ひました。こんな場合にはせめて一言でも御互に話し度と思ひました。そのうち二人は漸次遠ざかつて行きました。

『若しかするとあなたは私を、同じ言語を繰り凡て共鳴を等しくする同朋のなかに、住んでゐるから旅人の感を持つは、私であると仰有るかも知れません。御道理で御座いますが然し矢張り私は孤獨です此處に斯して見る世界は御互に生れた故郷と天國から離れてゐます。古い言葉に一樹の蔭も他生の縁とか。斯うして不意に御目にかゝつて瞬間に御別れいたさねばならぬとは殘念でなりませぬ。せめて此處で倶に『主の祈』でも致さうではありませんか。そして私達の心を神の愛の光りで溫め様では御座いま

せんか。私はそう致し度御座います。
更に私のやさしい心が左樣云ひ度かつたので、失禮と思ひながらも私は後をふりかへりました。そして白い白い御顏がよく私に見えました。透き通るやうなお聲で讃美歌を歌ひ出されましたので、私はそれを親しき袂別の御言葉とも私への御答であるとも聽き入りながら、心強く歩きました。歌と歌とに心を寄せてお互の心を識る、私はおのづと淚がにじみました。
若き西洋の淑女よ！あなたは私をお覺えになつてゐて下さるでせうか……茶のショールをしてゐた人それは闇にも御分りになつたでせうと存じます。私は心密かに「私は富山で御座います」と手をさしのべて居ります。
「新らしき天地の開けた時に御目にかゝれる淸き友それまでとはあまりにお待遠い事で御座ります。主にある友よ。

渡米者の栞

（西洋禮法）

河井道子

西田米子夫人は夙に北米合衆國の紐育市に良人と共に渡航して廣く米國の事情に精通した教育ある婦人で、良人と共に教育、實業界或は交際場裡の事柄を委敷探知て居ります。昨年日本に在る老母を見舞旁々歸朝しました。今度又米國へ再渡航せんとするのでありますが、友人より是非三人の若き婦人を同伴され度しと依賴ました故、夫人は喜んで承諾しました、同行者は伊藤なほ、淸水まさ、中村せいの二人で都馴れぬ質素な娘ですが、今回良緣ありて米國へ花嫁として渡航るのです。親同志が友人の間柄とて相互に人物、品格等も了解つて居り、決して冒險的廣告や、媒介者の口車に乘り渡米する如き人達ではありません。

西田夫人は至極親切て、快活な性質故、人の世話を喜んでする感心な婦人なので三人の田舍娘をも喜んで引うけ、第一仕度の世話より數へねばならぬとて態々自宅へ三人を招待いたしたのであります。

西田夫人「皆樣もう旅行免狀が御許可でせう、其の御世話は私にも出來兼ますから何卒父兄の方々にして御貰ひなさい、今度私の乘ります春洋丸は今日より一ケ月後でなければ出帆致しませんからそれ迄に旅行の用意萬端を御注意申上ます。

伊藤なほ「もう旅行免狀は下がつて居ります、只心配なのは夫人は一等だし私共は二等か三等で行くのですから御迷惑ではありますまいか。

夫人「そんな事決して御心配は入りませぬ、最も同室でありませんから御世話は出來ますまいが貴女方が三等で堅固した女として他の若い者等の手本となつて下すつたら反つて三等の方が結構でせう、皆樣の旅行の御衣裳は如何ですか。

清水まさ「私の親類に數年前布哇に行つで歸つた者がありまして其人が洋服や帽子の古いのを遣ると申しますからそれで私は間に合せ樣と思ひます。

夫人「それはいけませぬ日本服と洋服とは時節柄といふ點が非常に違つて居ります、五年や十年前の洋服を着ると日本なら百年前の衣服を引出して着たよりももつと奇妙に見えます、決して流行を追ふと云ふのではありませんが始めから人の物笑になる樣な可笑な風は一等客、三等客を問はず整然としたければ不可ません。

中村せい「何卒何品を持つて行つたら宜しう御座いますかお仰つて下さいませ、御恥しい事で御座いますがお金が充分あるので御座いませんから一ト通りの物丈しか買へませんから。

西田夫人「御尤で御座います、何も立派な物を拵へなさいとは申しませんが極入用の物丈を申しますから其中でも費用を御省きなさる爲め御持ちなさらぬとも宜しい物もあります、第一洋服で行く積ですかそれとも日本服ですか、

なほ「どちらに致しませう。

夫人「充分な事を申せば日本で洋服の旅行着一揃丈け出來れば結構ですけれど、新調るにも西洋婦人か又洋服の事をよく御存じの日本婦人かの御指圖で御拵へなさらなければいけません、田舍て洋服屋等に一寸拵へさせるとそれこそ物笑となる樣な物を着且不經濟です、それ位なら寧ろ日本服て行つた方が宜しう御座います。

まさ「夫人洋服一揃とは何々を申しますか又何程かけましたら出來ませう。

夫人「それは上下揃つた着物一組英語でスートと申します、之は黑又は濃藍の毛織物が一番日本人の顏に似合ひ又經濟です、決して派手た色や模樣の有る物をスートには拵へません、スートは上部の方がコートになつて下部が裳になつて居ります。それからコートの下に着るのをブラウス或はウエスト申します。

まさ「其ブラウスの木地は何が宜しう御座いませう。

夫人「是は白地の無地の麻布、絹、又はメリンス地を用ひ稀には色物や模樣物を用ひますが決して派手〳〵しい物は用ひません、例へ皆樣が桃色や紫等のウエストを着て居る人や給を見ても決して其の樣な眞似はしないで可成地味な濃無地の物を御撰びなさい。

なほ「下着は如何致しませう。

夫人「下着が整然として居ないと洋服は見られません、是には先づ一番下にメリヤスの襯衣とメリヤス又は白木綿で作つた半股引を着け其上に普通なればコーセットを着けますがそれは始はそんな心配は入りません、其上にシミーズと申して肩から膝の少し下位迄の白い下着其上に冷える人ならネルの短かい下裳(改良腰巻)を着け其から長い下裳を着けます、之は白色でなく色の付いた木綿なり金巾なりで拵へます其上に上着を付けるのです斯く一通丈け日本で安く拵へ樣とすれは先づ金五十圓は掛ります、一體洋服は仕立代が高價なのです日本服の樣には行きません五十圓でもそれを米國で拵へ樣とすれば其倍額は掛ります、けれど誰か洋服の事をよく知つて居る人が見て注文したり身體に合せて拵へたのでなければ決して日本で拵へない方が宜しう御座います。

せい「帽子と靴は如何でせう。

夫人「洋裝なら勿論入用ですが日本で無暗に高價な物を買ふ必要はありません又ゴテ〳〵した物は日本人の顔に似合ひませんから目立ない帽子を西洋婦人に見立てゝ貰ふが宜しう御座います、五六年前の物など例へ巴里から來た帽子でも被ると反つて滑稽に見えます、靴は大切です、日本の足袋の樣に何文と云ふて誂へると大きかつたり小さかつたりしていけませんから足に合せて計つて貰つて拵へねばなりませぬ、其に餘り先が尖つたり又踵が高過ぎたりすると靴をはき付けない人には危いそれのみならずお可笑しう御座います。それかといふて下駄の樣に巾の廣のも見好くないから矢張靴の事を良く知つて居らるゝ方に世話をなして御貰ひなさい、靴下のブラ〳〵下るのは無性に見えます、其を糸等で結ぶと血の循環が止まりますから五分巾位の護謨紐を買ひそれを輪になして止めると宜しう御座います、それで帽子は六七圓位、靴は五六圓、靴下は一足一圓五十錢靴下止め一足分二十五錢位の物です、それに手袋が入用です、之も日本では皮のが高價ですから普通に絹か木綿の物で宜しう御座います、只黄色や桃色、青、紫等をお買ひなさらぬ樣澁い色が宜しいのです。

まさ「夫人餘り面倒ですから日本服で參りましたら如何でせう。

夫人「私も其方が賛成です。

せい「然うしますと何々を持參致しませう。

夫人「布哇に上陸する人や又布哇を通つて米國に行くのですと船の中で二タ通りの着物が入ります、私共は二月の末出帆致しますから普通に冬の着物を着て乘船致しますが布哇近傍に至りますと一年中夏ですから暑くて堪えられませんそれで手荷物の中に單物二三枚を入れておかねばなりません、船の中の服裝は普通で宜しいのですが着物が風で捲れて脛が見えたりすると西洋人は大層嫌がりますから袴を付けると結構です、足袋は甲板に出る時は必ず穿いて御出なさい、帶無しで人に見らるゝと下品になりますから是非被布を一枚御用意なさい、半コートで結構です、そうすれば大きな帶を占めたり皺々の袴を穿いて居なくとも宜しい、若袴を新調るのなら矢張濃藍鼠色が宜しう御座います、海老茶は目立過ぎていけませぬ。其他洗面道具は是非御持ちなさい、小さな金盥も重寶です、船で色々な人が居りますから眼病、皮膚病等の傳染る憂がないとも限りませんから御自分の金盥はお持になる方が宜しう御座います、決して手拭ハンカチーフの貸借は禁物です兎に角目立ない無性でない樣にして居れば宜しいのです。

せい「藥は色々と持つて行く必要がありますか。

夫人「御丈夫な方なら入りませんが是非忘れてならない物は通じ藥です、誰でも航海中は便秘に患ります、通じさへ好く付けて置けばそんなに船に暈ふものではありせん。

なほ「どんな通じ藥を持つて行つたら宜しいでせうか。

夫人「安全で有効なのは東京三共株式會社のカスカラ糖が一番宜しう御座います、之れは一瓶四十錢で二三年位も人に依つては使ひます、それを三四粒位飲みますと大概宜しう御座います、これを時には用意しない人がありますから同船者に配けてあげても宜しい物です其他は皆樣の平生の通り仁丹なり寶丹なりを御使用になれば宜しう御座います、若、ひどい病氣に掛る樣な事があつた時には船には醫者が居りますから御心配には及びません。

まさ「色々と有難う御座いました、それで旅の用意はもう充分で御座いませうか。

夫人「三等ならば是非共四布蒲團及毛布一枚位御用意なさらなくてはなりません船には其準備（そなへ）が御座いませんから、そうして、もし桑港から上陸なさらないで沙市（シャトル）又は晩香坡（バンクバア）から御上陸なさらふといふなら海が餘程寒くなりますから着物、毛布等暖かい物を用意する必要があります。

せい「一體何日間船に乘つて居るのですか。

夫人「布哇へは横濱から先十日、布哇から桑港迄六七日間です、東洋汽船會社の船にて桑港へ行くには皆布哇へ寄港（よつ）して行きます、若し沙市に行くには郵船會社か大阪商船會社等の船で十四五日間掛ります、これは布哇へは寄港しません。

せい「船賃は幾何程掛りますか。

夫人「船に依つて違ひます、普通神戸或は横濱より桑港迄

	一等	二等	三等
東洋汽船會社	三百圓ヨリ四百圓マデ	百五十圓ヨリ二百圓迄	六十圓ヨリ七十五圓位マデ
大阪商船會社	同	同	同
日本郵船會社	同	同	同

多少會社に依り違つて居りますが大體こんなものです。

まさ「もう一つ伺ひ度い事は、荷物は信玄袋の大きいのか柳行李で宜しう御座いますか。

夫人「宜しう御座います、柳行李ならば防水の爲めズック張にしたのが安全であります、水が入らない迄も濕つたり致します恐れがあります、普通の行李でも中へ澁紙か油紙を敷いて用ゐますと宜しう御座います、そして四隅を皮かズックでとぢさせて置きなされば丈夫で宜しう御座います。

せい「色々と有難う御座いました又伺ひに出ます、みな田舍者ですから宜しく御指導（おしづ）を願ひます」と三人は禮を述べていそいそとして歸つたが、まだ習ひ度いことがあるとて一週間後に三人は又西田夫人を訪問致しました。

なほ「御多用の處を度々御邪魔致しまして濟みませんが少しく彼地の禮儀やら船中の心得等を知り度と思ひまして伺ひに參りました

夫人「ようこそ御光來下さいました。私も其れを早くから御話し致し度と存じながら時間がなくて其儘になつて居りましたけれど貴女方から其の御申越しなら何は扨置ても御咄し申上げませう、何處でも禮儀と申せば先方を心地好くさせる、迷惑を掛けぬと申すのが骨子（もと）で御座います、それ故日本の禮儀だとて西洋のだとて其心は同じ事なのです、只發表の仕方（あらはしかた）が違ふのです何事でも親切にするを以て肝要（だいじ）と致します。

なほ「私は田舍者で日本の禮儀もよく辨へません位故何卒惡い處は御遠慮なく御申し聞け下さいませ。

夫人「私も不躾ですから遠慮は致しません氣付いた處は申上げますから御氣に障つたら御免下さい。

三人「どう致しまして。

夫人「第一お低頭（じぎ）です、日本の爺さん婆さんの樣に無暗にペコペコ膝の下迄手をやつて御禮をするのはいけません、丁寧にしたつもりが却つて馬鹿氣て見えます。

三人「まあ然樣で御座いますか！

夫人「それから日本でも心得た人達は致しませんが、よく鼻をク

ツ〳〵いはせたり、鼻や齒の掃除を人の前でする樣な男女がありまず、しかも汽車のなかなどでよく平氣でする人がありますが決して、彼地では馬鹿の外致しません常にハンカチーフを持つて居る事が必要です。

まさ「ハンカチフは絹などが宜しいのですか。

夫人「否、白い木綿や麻が第一で而も緣が色取つたのなどは止して眞白のを御使ひなさい其れも一週間も使ひ垢染みたの等人前で使つては不可ません。

せい「塵紙は如何ですか。

夫人「あゝそうです！彼地では使ひません、然し船の中ではハンカチーフを洗ふ處がありませんから塵紙を御持參になり御捨てになると清潔で重寶です、清潔と申す事が禮儀ですからつまり人と逢ひましても不潔ならいやな感じを與へ清潔の人なら好い感じがしますこの清潔の點を申上ませう、日本では顔は奇麗に御白粉を付けて居ても手や頭髮を垢だらけにして居る人がありますが、あれは彼地では決して致しません。

なほ「夫人、それは田舍者には無理で御座います、手を毎日使つて居りますのですから都の御孃樣の樣に白い柔かい手にはなれませんもの、

夫人「否私の申す意味はそれではありません。いくら白くとも無性にして居ては不潔で、黑い剛い手でも垢を付けて置かない樣にすれば清潔なのです、却つて働いた手の方が眞個の價値が御座いますし私の意味は爪をよく挾み爪の中に黑い垢などが溜つて居ない樣に注意する事です、船では水が充分でありませんから度々手をお洗ひなさる事も出來ませんけれども出來る處に御出になつたなら好く洗ふ事です、朝一度洗つた切りで平氣にしては居られませんよ。

せい「頭は何といふ油が好いでせう。

夫人「それは皆樣の御好次第却て私は存じません、油を付けてテカ〳〵させて居るのが清潔と申すのではありません、或人は油を付けねば結髮ず又は粘り付いて思ふ樣に結へぬと云ふ人もあります、私は頭を臭くしたり又ばら〳〵前後にぶらさがらない樣に整然と結ふて居る事を申すのです。

せい「私の髮は餘り硬いので、それに短かいものですから直に下がりますが何かよい工夫が御座いませうか。

夫人「お察し致します私も同じ事ですから。

せい「夫人の御髮は少しも毛がばらつきませんのに。

夫人「これを御覽なさい小さなピンで諸所と止めてあります、そして薄い〳〵網がかゝつて居ります。

きよ「なる程氣が付きませんでした何處で御買になりましたか。」

（續く）



皇帝の疾病

袖山愛子譯

羅馬帝王チバリアスの朝の末期にセバイン山中で、人の住み棄た孤家に宿を定めた、貧しい葡萄造りの夫婦がありました。他郷からの漂泊人ですから身寄もなく知邊もなく全く人里離れて淋しく暮して居りました。或朝の事葡萄造が何心なく門の戸口を開けますと驚いた事には汚穢い外衣を身に纏ひ貧しげな一人の老婆が傍に佇んで居ました、汚穢しい風態はして居ますが何か尊い者の化身であるかの樣に威厳が備はつて居ました。老婆が靜々此方へ近づいて來ました時には良く傳説などにある樣に女神の藉りに老婆の姿となつて人間を訪れたのではあるまいかと思つた位でした。老婆は葡萄造に向ひ、

「此一夜を貴方の家の軒に明かした事を不審しく思はないで下さい。私の兩親は昔此孤家に住んで居て私は九十年計り以前に此家で生れたのです。此家は誰も住む人もなく荒れ果てゝ居る事と思ひ、他人が住んで居るなどゝは夢にも思はず歸つて來ました」

「此樣な人氣離れた山奥の孤家が住む人なく荒れるに任せてあるだろうと思はれたは御尤です。私共夫婦は他國から來た貧しい漂泊人でこれより良い住家を求める事は出來なかつたのです。貴女は御老體で長い旅をなすつたのでは定めて御疲れになつて御腹も空いたでせう、此家が狼の住家となつて居なかつたのですから、私共は幾分か狼よりは增しな歡迎が出來るかも知れません、何卒御入りになつて何はなくとも野羊の乳と麪麵菓子で貴方の饑を癒し、御ゆ

るりと床の上にお休み下さい。』
老婆は深い悲哀に沈んだ顔に冷かな微笑を浮べて
『私は幼い時分から此家に住みなれて、今でも狼を追ひ駈ける事は覺えて居ます。』
老婆は眞個に見た處壯健そうで力も強く、此老年になつても森林の野獸と戰ふ事位平氣そうに見えました。葡萄造は尙も頻りに勸めますので老婆は家に入り質素な食卓に就て氣輕に食事を始めました。
野羊の乳に浸した手製の麭麪の粗末な食事に彼女は滿足して居る樣に見えましたが、葡萄造夫婦は心の中で、
『一體何處から此婆さんは遣つて來たのだろう、美味珍食に馴れて居てこんな粗末な野羊の乳なぞは飮んだ事が餘りないらしい。』
老婆は今も尙壁上に微かに殘つて居る犬や鹿の畵の跡を指差して、彼女の父が子供等を遊ばせる爲めに書いたのだと告げ、高い棚の上に見掛けた瀨戶物の破片は其昔彼女が乳を計る時に用ゐた皿の破片である事に氣が付きました。葡萄造夫婦にも此老婆は慥かに此家で生れた人であるといふ事が飮込めました、夫婦は又老婆が呆然と遠方の事を思つて居て、氣が付いて我に返つた時には心配氣に深き溜息を吐く事をも見て取りました。食事を濟ました後に老婆は靜かに立ち上がり、夫婦の者の歡待に厚く禮を述べて立去ろうと致しました。然し老婆の姿は葡萄造の眼に非常に貧困に迫まつて居て身寄もなく孤獨の人の樣に見えましたので彼は老婆に向ひ
『私の思ひ違ひかも知れませんが、折角昨夜此處まで辿り着いた貴方が、そんなに早速に此家を立去りなさるのは貴方の御本意ではないと思ひます。失禮ながら御見上げする樣に若しも貴方が本當に貧しく居られるならば、此家に留まつて貴方の餘命を御暮しなさり度いのでせう。私共夫婦の者が此家に住んで居りますので、それで心ならずも立ち去らうとなさるのでせう。』
老婆は葡萄造の言を否定するでもなく

「住む人もなく永の年月荒れるに任せてあつた此家は私の所有物であると同様に貴方の所有です、私は貴方夫婦を追出す權利はないのです。」

「これは貴女の御兩親の家です、當然貴女の所有物です、私共は未だ〳〵若い年ですから御老人の貴女こそ此家に御殘り下さい、私共こそ出て行きませう。」

此言葉を聞いて老婆は非常に驚き、葡萄造の顏を熟視致しました、若き妻は口を添へ、夫に向ひ小聲で、

「私の考へますには良人が此老婆さんに私共夫婦を御自分の子供同樣に思つて此家に御一緒に住んで下さる樣に御願したらいゝと思ひます、若も私共が此破家を此儘に老婆さん一人殘して去つたならさぞ淋しい荒れた山奥に住むのは恐ろしい事でせう、どうして生命を繋いで行くでせう、饑餓死なす樣なものです。」

「どうして御夫婦達はそんなに御親切なのです」

と、老人の云へば若き妻は答へて、

「私共自身が嘗て非常な恩惠に預りましたから。」

斯うして老婆は葡萄造夫婦と同居する樣になりました。日を經る儘に若夫婦と非常に親しみを增して來ましたが、其でもまだ老婆は自分は何處から來たのであるか又何者であるかといふ事を一口も告げませんし、夫婦の者も聞いたら感情を害するかも知れないと其儘にして置きました。

或夕、一日の仕事を終つた三人は門口にある平たい大きい岩を食卓として夕食を共にして居りますと一人の强健な老人が其道に來懸りました。

「アヽ老兵が職を罷めて故鄕へ歸るのだらう。」

と、葡萄造は獨言ちました旅人は家族の座つて居ります處迄やつて來まして不審さうに立止まりました。小屋から二三間離れるともう道が盡きて居ますので葡萄造りは手に持つ匙を止めて、

「お前さんは道に迷つたのだね、此處へは私共に用のある人の外には誰れも登つて來ない處ですよ。」

斯う聲掛けられて旅人は近寄りながら、

『仰しやる通り間違つた道に來て仕舞ました、何處の方角へ行つていゝのだか見當が付かない、誠に申兼ねますが少し休ませて下さいませんか、それからどの方角へ行つたら宜いか敎へて下さい。』

と老人は小屋の前にあつた石に腰打ち掛けました。葡萄造の妻は親切に何かと食物等を進めるを辭退しながら頻りと此人達と話し度い樣な樣子で生活の模樣だの仕事だのに就て色々質問をかけ、若き夫婦は有の儘に至極愉快氣に答へて遣りました。葡萄造はやかで老旅人に向ひ

『私共は隨分淋しい人里離れた處に住んで居ると貴方は思ひなさるだらう、羊牧や葡萄造り以外の村人共と言葉を最早一年以上も交した事がない、軍隊にいたお前樣は羅馬の樣子や帝王の消息も分かつて御出でだらう、少し聞かせて下さらぬか？』

『はゝあ貴君は私を軍人だと思ひなさつたなア、余程以前に退職したんだが軍人は軍人に違いない、お察しの通りです。チバリャス帝王の御代には我々軍人には餘り用事がないのでさあ、王の威勢の盛んだつた時分には王は立派な指揮官だつたがなア！　此頃では謀叛者を防ぐ事計りに腐心して居ますよ、羅馬市中では何の譯で前週に王は元老院議官を捕縛して眞のつまらない疑惑の爲めに死刑に處したとか專ら其噂で持切りですよ。』

『お可愛想に、王樣は心が無茶になつて氣が狂つて御仕舞になつたのでせう。』

と、若き妻は悲哀と驚愕に首を振りながらに云ふ、

『本當にそうですよ。』

と、老旅人は深き悲哀に閉された面色で

『チバリャス王は人民が皆自分を嫌つて居る事を知つて居るのであの樣な氣狂になるのです』

『お前樣方はお聞きだろう、是迄チバリャス王には依り賴んで居た唯一の友が宮殿にあつて、此人のみが眞實の事を王樣に申上げて居た、其他の儕輩は皆よい加減な阿諛者や僞善者で王樣が如何な殘忍酷薄

な事をしてゝ善事をしたかの如くに御追従計り云つて居る、然し其唯一の友は、少しも恐れないで王の行爲が惡ければ惡いと斷然と忠告するし、此人計りは元老院議官よりも、大臣大將よりももつと勇氣があつた、此人物は即ち王樣の老乳母のフオスチナです。』

『私も其乳母の事なら聞いた事があります、王樣は其乳母を大層親身に思つて居られるといふ事は常も聞いて居ましたよ』と葡萄造は言葉を入れた。

「本當に、チバリヤス王は彼女の愛情と忠義には感服され、非常な恩惠を授けられた。」

老旅人が此家に着きましてから以來老婆は一言も發しません、彼女は元の柔和い、親しみ易い表情を失ひ、食物を傍に押遣り、嚴格な態度で、石の樣に堅くなつて戸口の方を向いて座つて居りました。老旅人は尙も言葉を繼ぎ、

『彼女が幸福な生涯を送るのは全く以て王樣の優渥なる思召だ、それだのに凡て王樣の厚意を無にして彼女も亦王樣を捨て去りにしたのだ。

此言葉を聞いた老婆は愕然としましたが、若き妻は老婆の腕に柔しく手を掛けて、柔しい同情に滿ちた聲で老旅人に向ひ

「私は其婦人が宮中に居た時は貴君等が思つて居られる程幸福な者だつたとは信じられませぬ。』

これを聞きました老旅人は驚いた樣子で前の方へ乘り出し

『フオスチナに付ての內儀さんの觀察は多分間違いないでせう。彼女は眞實に宮中に居た時はそれ程幸福ではなかつたでせう、然し、今更になつて老年の王樣を一人置き去りにして行つて仕舞つたといふのはどうも譯が解らない。』

『何だつて？ フオスチナが王樣を置去りにしたつて。』

と、葡萄造は頓狂聲に申しました、老旅人は

『彼女はカプリから誰も知らない間に影をかくして仕舞つた、彼女が昔宮中に始めて上がつた時の樣な

貧しい姿になつて彼女は何一つ貴重品を持つて行かず、ほんの着のみ着の儘で。」
「王樣はフォスチナが何處へ行つたかほんとうに知らないのですか？」
と、妻は尋ねる。
「どうして、誰一人どつちの道へ行つたかも分かつて居ない、なんでも彼女の生れ故郷の山中の隱家に歸つて行つただらうと云ふ想像はして居るがね、未だ分からない。」
「王樣は何故彼女が行つて仕舞たかといふ事も御存じないのでせうか。」
「全然お存じない、陛下は彼女が去つたといふ事を信ずる事が出來ない、實際、彼女程王樣の孤獨を知つて居る者は他にないからなア。」
すると若き妻は
「私はフォスチナがどんな人だか知りませんが、どうして王樣を捨て去つたか想像が付かないでもありません、老婦人は山の中で單純な敬神的な家庭に育てられたので常に此山中へ機會があつたら歸つて來樣と思つて居たに違いない、餘命僅かになつた今は氣樂に餘生を送り度かつたのでせう、私だつて彼女の立場になればそう致しますわ、私だつて一生長い間御宮仕をしたなら最早これで充分君の爲めに盡したと思ひますよ、そして死ぬ前に少しでも氣樂さを味う爲めに氣骨の折れる贅澤や恩寵をも御辭退するでせう。」
老旅人は深き沈痛な面色で若き妻を瞥視ました。
「王樣の性癖が漸次惡い一方になるので例の疑惑や猜忌が最高潮に達した時には、誰だつて手の付け樣も、ないまあ考へてもみるがよい。
皆の衆、チバリヤス王に就て人が何の彼のといふても彼は到底今は失望落膽の極に居るのだ、只注意したい事は若しや今いふて居たその老フォスチナが此家へにでも尋ねて來る樣な事があつたら、大切に待遇して遣りなさい、帝王はどんなにか喜んで、彼女を助けた人には手厚き報酬を御與になるでせう。」

と、云ひ終り

旅人は外套を纏ひ元來し道へと引返して行きました。

其後葡萄造夫婦は別に帝王の事に就て老婆に話し掛けるといふ樣な事もなくて過ぎました、夫婦は互にこの年になつて好くも今まで馴れて來た富貴、權勢の境遇を思ひ切つて棄てる事が出來たといつて驚嘆して居ました。

老婆は半年毎に一度長い、鼠色の外套を身に纏つて羅馬に漂然と下りて行きます、羅馬では誰を尋ねるでもなく只一筋に神社へ詣で繁華な市街の一角に在る小さな社殿の前に跪きます。老フォスチナの旅行は此神殿以外に出ません、此神社はチバリヤス王の安寧を祈願する者の常に詣でる處でありまして、其處にある王樣の像は花で飾つて、犧牲の火が燃えて居て祭壇の前には熱心な祈願者が大勢集つて居て祭司が捧げる四邊に響く低音の御祈禱に耳を傾けて居りました。斯の如き方法で彼女は誰にも尋ねないでチバリヤス王は尚御存命で別に不幸な事はないといふ事を確かめました。

三度目に此旅を致しました時は彼女は驚かない譯には行きませんでした、彼女が此神社に詣つて見ますと社は荒れ果てゝ棄てられてあつて像の前にお燈も付いて居なければ一人の參詣人も見えません、祭壇の傍にはありし昔の華かさが語る枯れた一對の花輪が掛かゝつて居て、祭司も居なければ帝王の像も破損して泥塗れになつて居ました。老婆は通り掛りの一人の人に

『まあ一體如何した譯ですか？ チバリヤス王は御崩御遊ばされたのですか？ 他の王樣が御即位になつたのですか？』

と、問ひました、すると羅馬人は

『イヽエ、チバリヤス樣はまだ帝王に入らせられます、けれど私共は王樣の爲めに御祈禱をする事はやめました、いくらしたつて何の利益もありやしない。』

「まあ左樣で御座いますか、私は山の中に住んで居りまして世の中に起つた事は何にも存じません、誠に申兼ねますが如何な恐ろしい不幸が王樣の身に降り掛つて來たか話して聞かせて下さいませんか。」

「何が不幸つて、此樣な恐ろしい事はありやしません！　王樣は是迄伊太利では聞いた事のない樣な病氣に罹つて居られるのです、此病氣に罹らせられてから王の面相は變り、聲は獸の鳴き聲の樣になり、手足の指は皆腐れ落ちて仕舞ひ、此病氣には藥はないと見えます、人民は皆王樣は玆二三週間の中に御崩御になるだろうと思つて居ります。若し御崩御にならないとしてもとても御退位の外はない、此樣な病氣で身體の腐つた人がとても一國の政治を司る事は出來ない、もう御命數は盡きて居るのですから神々に祈禱つたりする事は無益な事です。」

彼は尙冷笑を浮べながら會釋して行つて仕舞ました、老婆は恰かも氣が拔けた樣に呆然として、急に老衰した樣に感じ、腰を曲げて混亂する頭を抱へながら大地に倒れ伏して仕舞ひました。早く此處から去ふとあせるのですが力が拔けて如何とも出來ず、漸くの思ひで靜々と其場を去りかけました。一生懸命に張りつめた意志の力でどうやらこうやら氣絕しないで助かりました。

一週間計り過ちましてから、老婆はカプリ島の嶮岨な坂道を辿つて居りました。暖かい日に此うねうねした嶮しい坂道を歩むのは取る年に弱た老人に取つては中々苦しげに見えました。此道は王の離宮に至る道です。彼女が一寸居なかつた間に凡の物が非常な變化を來して居るのを見て今昔の感に堪へませんでした。眞個に、昔は今步んで居る此坂道の兩側には何時も人が群がつて居りました。巨軀の御供たちにかごを擔がせた元老達や、奴隷の列を從へた地方より上京した使者だの仕官の道を求める人、帝王の御宴に招かれた高位高官の貴族達だので賑はつて居た此道は、今來て見れば全く荒れ果てゝ、大理石の崖の裂目の雜草が既に根を張つたとは、まあ何

たる事と驚きました。御庭園の美麗な鉢に植ゑられた美しい花卉は既に凋んで、停める人のないのをよい事にして惡戯者が毀したか、此處彼處欄干は毀はれて飛び散つて居りました。

彼女に取つて何よりも不思議なのは全く人が居ないと云ふ事です。例へ他人は此島へ來る事を禁じられたとしても、少なくとも官人、近侍の者共は何處かにか見付かる筈です。何時も居る兵士や奴隷の群能師伶人、料理人とか警護兵とか園丁とか宮廷に奉仕して居る者が多數ある筈です。フォスチナは離宮の前の階段に腰掛けて休んで居る二人の奴隷を見かけました。彼女が近づいて行きますと彼等は立上がつて辭儀を致しました。

「御機嫌宜しう御座います、フォスチナ様！　あゝ有難い、神様は私共の苦痛を輕くし様として貴女様を此處に遣して下さいました。』

と、一人が申すのでした。

『それはどういふ譯ですか？　ミロや。』

と、フォスチナは尋ねました。

『如何してこの様に荒れて居るのでせう？　チバリヤス王様は未だ恙なく此離宮に御住居の由を人民等は申して居りますが。』

『帝様は私共奴隷の中に一人、帝様に毒酒を盛つた者があると御疑ひ遊ばして奴隷を皆解雇遊ばしました、其毒酒の爲めにあの様な病氣に掛つたのだと疑ぐつて居られるのです。私共は强情張つて止まりましたそれでなければ御暇になる處でした、然し御存じの通り、私共は一生帝王様と母后様に御奉公致してしまひました。』

『奴隷計りでなく、元老とか武官達や御相手の官人等はどう致しました？』

『王様は他人に御面會なさる事を避けて居られます、元老のルシャス様と侍従長のマーコー様が毎日參內して接客の任に當つて居られます、其他の人は決して王様に御面會は叶ひません。』

フォスチナは離宮の入口の方へ尙ほ階段を上りますと、奴隷は彼女の前に立つて行きました、途々彼

女は奴隷に向ひ
『侍醫等は帝王樣の御病氣に就て何と申して居りますか？』
『左樣で御座います、何誰も此病氣には手の下し樣がないと見えます、此病氣に罹つた者は急に死ぬ者だか又は長く生きる者だか分かつて居ないのです、然し陛下の樣に毒殺されるだろうと、御心配で少しも食物を召上らなければどうしても御命は長くありません、そして病人があの樣に夜も晝も寢ないでゐては癒りつこはありません、陛下は睡眠中に逆殺されるだろうと思て少しも御睡りにならないのです。』
奴隷はフォスチナを案内した場所はチバリャス王が屢々御成りになつて美しい海灣の景色や壯大なベスビヤス山の景色を賞觀なさる處です。其處に腫れ上つた顏の宛然野獸の如き人物が悄然として佇む其前に奴隷は兩手をつき敬々しく
「チバリャス陛下、漸との事で念が屆いて、喜びの音づれを御聞かせ申す事が出來る樣になりました。」
と、云ひながら奴隷はフォスチナの方を見ましたが彼女は驚いてもう二の句は出ませんでした。彼女は力無げに蹲り、兩目には涙の露が宿り、手はふるへて居りました。王樣が御變りになつたとは聞いて居たでせうがさりとて今の今迄是程に變つたとは思ひも寄りません、彼女は亦此病氣は長引くもので、漸次〳〵と、人の相を數年の間に變へて仕舞うものだといふ事を耳にしたことがあります。然しこれは又どうした事、ほんの二ケ月の間に見分けが付かない樣に姿を變へて仕舞うとは何とした恐ろしい毒であろう。彼女は王樣の御傍に、にじり寄りまして言葉もなく只泣に咽んで居りました。
「フォスチナ、今戻りしか？朕は其方が此處で朕の事を思ふて悲嘆かるゝを想像致して居る、朕は眼を閉ぢて居る、若し眼をあけて、それは夢幻ならば悲しからんと思つて眼をあけぬのぢや。」
それから老婦人は王樣の傍に座し、彼の頭をあげて己が膝の上に恰も赤子の如くに休ませました。王は靜かに彼女のなすに任せて、目を閉ぢたまゝ、すや〳〵と平和な睡眠に入りました。（續く）

彙報

◎夏季修養會

女子青年會夏期修養會は從來東京附近の地にのみ開催せしが、本年は全く方面を轉じ、神戸と仙臺との二ヶ所に開くことゝなれり。

神戸は七月十七日（火曜日）午後より廿四日（火曜）午前迄、

仙臺は七月廿四日（火曜）午後より卅一日（火曜）午前迄とす。

されば各支部の姉妹方は此の二ヶ所の中何れかを撰み、友人等を勸誘して此修養會をして盛に、且有益なる集會となさん爲め應援されたし。東京、横濱の姉妹方は是れ迄毎年、東北、關西地方より多數代表者の出席されたる其苦勞を思ひ、是に酬ひんため、今回は奮つて仙臺なり神戸なりに多くの代表者を送られん事を勸む、啻に修養會のみならず、東北、關西の進歩せる狀態を目撃して見聞を廣め、名所古跡を探りて智識を養ひ、旅行の趣味を味ひたらんには、僅に一週間にて受くる幸福は多大ならん。

假令、全一週間出席し得ざる方々にても土、日曜等を利用され一日なりとも御來會を乞ふ。

費用

滯在費　金八十錢（一日分）

聽講料　金壹圓（但シ一日分金貳拾錢）

講師（依賴中）

稻垣陽一郎、金森通倫、留岡幸助、井深梶之助、名出保太郎、宮川經輝、原田助、青木澄十郎、森淑次郎、川本恂藏、林歌子、新渡戸稻造、城戸順子、牧野虎次、永坂鑑二郎、日野原善輔、梶原長八郎、其他、

六月中には印刷物を各支部に送附すべければ、可成早く出席者等を定め、本部へ申込まれん事を願ふ。凡て問合せは往復はがき或は參錢郵便切手封入して本部に宛てられたし。

◎定期中央委員會

大正六年五月十二日土曜日午後二時半開會、出席者は中央委員八名、及來客、幹事等合せて二十三名なりき。井深委員長の聖書朗讀、ミスゲインス、三谷民子氏の祈禱を以て開會、先づ前回記錄朗讀、會計報告ありて種々の報告、協議に移る。

青年會本部の働は世人の目に觸れずして實驗所の如き事業なれば一般の同情を得る容易ならず從つて寄附金募集にも至難なれば本部と東京青年會と協力し東京會員募集と共に本部基本金募集に努むる事となり委員一同奔走中なり、東京青年會加藤及渡邊兩幹事の報告は次號に載す、横濱青年會にて一月初旬より今迄に印刷物を贈りし渡米婦人凡千三百四十名にして同會に出入する者日々增加するの狀況なり、

本部河井幹事は二月中旬より五月中旬に廣島より東北地方を訪問し講演せし學校は十二校、教會十所なり。又ミスマシウは倫敦萬國本部よりの招待により萬事都合よくば本夏渡英に決す、それより夏期修養會、大茶話會、大阪訪問等の報告に次ぎ來客及新委員の紹介ありて五時半頃閉會す。

本部及東京 女子青年會の會員募集

中央並に東京女子青年會財政部委員等は相計り、協同を以て會員募集をなす事に決し、勸誘者を十部に分かち、各部に部長を置きて活動を始めたり。其各組は井深夫人、竹友夫人、新渡戸夫人、志立夫人納戸町寄宿舍、安藤坂寄宿舍、神田寄宿舍、ミスエマソン、ミセス、クック、學科の組の者なり。

目下の所納戸町の組最も有勢なり、各組互に奮闘中なり、既に卅名以上の入會申込者を得たるは喜ばしき限りなり。左に其芳名を掲げん。

四五月中の新入會員

通常會員

西芝子　西井岸子　二村とし枝
尾本民枝子　大橋勲子　奥井しづ子
河原田キヨ　加藤千代子　川上キクヱ
伊藤ハツ子　稲垣磐子　稲垣秋香

新川　艶子　乙守　信子　鹿股ふみ子　板倉　春子
堀川リヨ子　小島せつ子　川津タフエ　今成サチ子
星野むら子　小越通年子　横山八重子　石川キヨ子
星淺松枝子　大宮まき子　米澤なつき　市村須美子
利田なか子　小倉登久子　吉田　稍子　今村春江子
戸田キウ子　渡邊まさ子　吉永靜江子　伊多波安枝
土井澤江子　渡邊よし子　田村　道子　猪飼　艶子
富山ひて子　渡邊よね子　田母神せい　猪野　竹子
小野寺靜子　乾　とき子　武内壽枝子　入海二千代
萩野ちよう　玉置たね子　田村　恒子　萩原はま子
大森みどり　大塚　元子　高橋キミ子　橋本　秀子
大田せつ子　我部ヤナ子　田中みちえ　半田光枝子
恩地友江子　香宗我部花　高原きわ子　塙　かよ子
大島千延子　香川チトセ　田端まき子　高梨須美子
八幡　正子　赤井　久子　三谷かつ子　津田　米子
丸茂よし子　齊芳とみ子　平岩　順子　辻　浪子
垳木のぶ子　關　さち江　筒井チヨコ　渥美　鈴子
杉本　京子　筒井ヨシノ　藤野キヨノ　有吉キヌ子
鈴木　光子　土谷　貞子　藤井ヨネコ　齊間ますゑ
平岩　末子　中原よし子　福島とみ子　佐藤千代子
百瀬しづ子　高岩はな子　福井　壽子　佐田ひさ子
森　みち子　村尾うた子　福原さよ子　佐藤まさ子
最上　松子　薄井千枝子　藤岡加枝子　佐藤よね子
瀬尾靜枝子　上野花代子　近藤百代子　櫻井きぬ子
瀬尾タキ子　漆山タツ子　近藤貞榮子　蔡阿　信子

廣瀬　久子　野村　洋子　寺本　榮子　齋藤靜江子
廣瀬マリナ　倉田とり子　阿部カツ子　清瀬もとへ
廣瀬美喜子　栗田　綾子　赤倉かね子　金　姿　慶
鈴木　松子　栗田　絹子　荒　靜子　宮尾　元子
鈴木ヨネ子　草野とし子　青木　愛子　三井ユキ子
ダニエル　山崎さき子　赤城すなを　三原タチ子
プレース　福永　恭子　小野寺貞子　中山けい子
森　縫子

維持會員

沼澤くに子　益富きの子　鈴木ため子　ムラン
ウイパー　チエース　チヤペル　ヒート
スプロース　チエネー　ラッセル　江口　頼子
橋本とし子　岡田　周子

特別會員

岡田　ユニ　山脇　房子　高野武羅子　日疋カヨ子
高折カメ子　松岡　鎭枝　益田　定子　鹿原千代子
岸　澄子　原　光子　一井　貞子　牧田芽枝子
井上富貴子　原　富子

◎女學校卒業生諸氏の露國兒童救濟に就て

本女子青年會は兼てより女學校卒業生の爲め應分

の盡力を以て何物か意義ある會合を催さんとの志望なりしが、幸にも去る四月廿四日其手始めとして小集會を開きたり。代表せる學校名は

女子學院、女子英學塾、女子大學
女　學　館、青山女學院、駿臺女學校
普連土女學校、立教女學校、玉成保姆傳習所
お茶水高等女學校、

雨天にも拘はらず四拾名餘りの出席者ありて茶菓の中に懇談す。スキート夫人の詩吟及有志者の唱歌等ありて愉快なる會合なりき、ミスシエレシエスキーは立ちて露西亞の現狀に就き講演す、現今歐洲大戰爭中露國市内に於ける慘狀は知る人少からんも尠なくとも九百萬乃至壹千萬人の憐むべき避難者は生死の中に在りて、中就、小兒の慘狀は憫憐舌筆に盡し難し、我等苟も相當の教育を受け、且大正の御代にありて、平和安寧を樂しむ女子は玆に必ずや盡すべき大責任ある事を信ず。今世界文明國中今回の歐洲戰亂に依りて利益を蒙りたる者は我國のみなり、米國は財政に於て我より遙かに莫大の富を得たりと雖も、近頃の參戰問題にて、其國體の雜種民族より成立せるより其混亂は非常なる者にて、困難も多大なりされば眞に利益を豪りし者は實に我國のみなるべし、此際我等は女子と雖も人道の如何を鑑みて犧牲の念を養はずんば、靈肉共に衰退を來すは必然の事なりと。當日來會者一同女史の言葉に同意し、是非多數の姉妹等に訴へて此悲慘なる露國災害の渦中に投ぜられたる兒童を救濟せんが爲め應分の助力を與へん事を約して散會したり。

越えて五月十六日午後三時より再び本會館に於て大集會を催す、來會者二百餘名にして頗る盛會、ミス、シエレシエスキー女史の露國談前會にも增して熱心に聞く其實狀を目に見るが如し、來會者も至極熱心に傾聽したり。而して即時可決せし事左の如し。

此會名を露國兒童同情會として、委員は
三谷民子、谷岡貞子、小川順子

ミス、シェレシエスキー　加藤高子
渡邊百合子、千葉しな子、中西しな子
青芳とみ子、

諸氏撰ばれたり。

出金及寄附の方法は

一、寄附金額領收用紙十枚を一冊として之を來會者諸氏に分ち、寄附金を募集する事。(但し一口拾錢とす)

二、委員を擧げて趣意書を作製し、廣く諸學校に配布する事。

三、材料を集め、子供の袖無羽織、羽織等其他種々の衣類を作り之を罹災兒童に送附する事。

四、材料としてメリンス、毛織物、綿、メリヤス、古洋服、子供の靴下、靴、手拭、白木綿、脱脂綿、繃帶、タオル、毛糸、靴下、手袋、肩掛、毛布等新古に拘はらず寄附を募る事。

五、食料品として、コンデンスミルク、水飴、翁飴甘納豆、ビスケット、煎餅等、(凡て此等は鑵入たる事)を募集する事

以上は協議の主なる事にして早速有志者は、毎土曜日午後、本女子青年會館に集り裁縫を始むる事に決せり。尚追て委員數を増し、可成市内各女學校出身者中より適任者を得る事として希望に滿ちつゝ閉會す、既に東京女學館本條氏の如きは、早速同級會に臨み事の由を述べて、箱を廻し寄附金を募りしに金八圓を得たり、さて右金額を直に同會會計部に渡されたり、地方に於ても此擧に賛成せらるゝ姉妹方には金子物品を當女子青年會本部內露國兒童同情會宛に御寄附あり度し。

◎本部夕食會

今回米國より渡露の途中、日本に立寄られし米國女子青年會幹事ミス、シハペンサー及ミス、ボイスの兩女史を招きて、本部、東京、横濱の本會幹事、事務員一同は五月十一日夕食會を催す、兩女史は互に立ちて渡露の動機、目的、希望に就て語られ、

我等一同大に鼓舞せられたり。

横濱女子青年會主催音樂會

同會は事業費の一部に充つる爲め五月十二日(土)音樂會を催せり。委員諸氏の非常なる努力に依り折柄の雨天にも拘はらず四百名餘の來會者を得て非常なる盛會なりき。

演奏曲目

第一部

一、三曲　夏之曲　(尺八)榊原氏、(尺八)廣澤氏、(琴)草田夫人、(琴)草田令孃、(三味線)佐々木夫人

二、舞踊　鶴龜　踊、(鶴)大川とみ代子孃　(龜)飯塚すゑ子孃

三、落語　芝の家ビリケン君

四、舞踊　ふじ娘　踊、後藤みち子孃

四、マンドリン合奏　横濱マンドリン倶樂部

第二部

一、女聲獨唱　プロフエトから　鈴木いぶ子孃

二、ピアノ獨彈　ヘイブン夫人

三、女聲獨唱　近藤みつ子夫人

四、レステイーション　シエレシエスキー孃

五、女聲獨唱　ベーイン夫人

六、ヴイオリン獨奏　カンゾネタ　チヤイユスフスキ作曲　深兼雅氏

支部より

■東洋英和女學校傳道部　過日河井先生の有益な御講話を伺ひまして非常な力を得、日々勉め勵んで居ります、茲に金一封、封入致して置ますから御事業の端に御加へ下され度願ひます。

■清流女學校青年會　清流にも初夏の氣分がたゞよふ樣になりました。學び舍の窓から外を見渡しますと、一面の麥畑で青々と活氣に滿ちて居ります、その色は實に鮮かで、見る目に心地よう御座います、私共の青年會もこの樣に段々芽を吹き出してこの麥の樣にならんとして居ります。

又近頃庭に花壇を作りまして、その委員を選び、花の苗を集めまして栽培し、出來た花を病人慰問の爲めに用ひ、又其他少しでも有益に用ひ度いと思つて居ります、私共は此花を毎日眺めては神の深き恩

みはこの花の一片にも灑がれてあると思ひ、よく世話を致して居ります、又寄宿舎の前の藤が非常にきれいに開きました、約翰傳十五章を思ひ出します、この藤の幹に枝が連ならなかつたならば、木が枯れると同樣に私共も神樣を信ぜず、各自勝手な事をして居たならば枯れて仕舞ふ事と思ひます、又それと同樣に本部へ消息もせず、打放て置けば遂には枯れて仕舞ふ事と思ひます、先達、金城女子青年會へ文して色々とこの二つの青年會の親善を計りました、此の間私共は學校の催で知多半島の新舞子の方へ汐干に出掛けました、そして會員達は春の海を眺めまして誰も彼も皆異句同音に神の御惠はこの水の樣に廣く堪え溢れて居ると語り合つて、共に神樣を讃美致しました、今日は只近況を報知して筆を止めます。

■**梅花幼稚園保姆傳習所青年會**　信濃の氣候も何時しか人々の羽織をはかせる頃と相成、私共も益々會の爲めに働き度いと存じて居ります、幸ひ本年は傳習所の入學者も多數にして從つて新會員も增し、園長ドレーク先生も益々會の爲めに御盡力下さいますので一同誠に悅んで居ります、新學期早々役員の改選を致し、左の如く定めました。

會　長　瀧澤當枝　副會長　高木靜枝
會　計　鈴木たか　仕事員　小野千代
書　記　上野信榮　同　藍澤ゆき
集金掛　櫻庭つね

扨來る五月廿六日には當園第一回の校庭運動會を開き、其際に當青年會の慈善市をも開催し、益々會の發展を計る考にて只今は會員一同折角共用意中で忙しく働いて居ります、當青年會も時々名士の御講話を御願ひ致し度くと存じますが何分にも會が小さくて思ふ樣に參りませぬので殘念に存じて居ります

■**ウイルミナ女學校青年會**　花もいつしか散り行きて青葉の蔭なつかしき頃と相成申候、扨此度左の如く委員相定め申候間御通知申上候也。

會長　藤野、取締委員　井深、杉田、傳道員　神山、祈禱員　杉田、慈善員　古木、音樂員　西山、

會計　古木、田中、書記、宮川、金澤　以上、

■同志社女學校青年會　初夏の候となりました、益々會の活動を開始するに好時節となりました。これから一同大奮闘を致す心組で御座います、本年も會長として適任者を得ました故一同喜んで居ります、扨私共社交部員は例會、其他の集の接待を致し、いつも大した働も致しませんが、何か適當な働はないでせうか。新學期に入りましてから多數の新入會員を得ました、文學部の働きとして如何なる事をしたら宜しいでせう、文學部員は只今廿三名計りあります、只今は奮的聖書研究と會員より感想などを記せるものを集め、回覧するなど又時に文學會を開く等致して居ります。

■福岡市英和女學校　今回本部に宛て支部開設の申込をなしたり。

電•話•と•振•替•

女子青年會への會費、雜誌代或寄附金を御送金の節は爲替の外に振替にて御支拂ひなさるのも輕便です、御存知の無い方に申上げますが振替は手數料も金壹圓迄壹錢、金五圓迄貳錢です、先郵便局で振替支拂用紙を請求し共に本會振替口座番號東京貳參七貳參番加入者氏名、支拂人氏名、金高等を記して即時拂すればよろしいのです。

東京市神田區北神保町十四番地
日本基督敎女子青年會本部
電話本局五九八番
振替東京貳參七貳參番

一「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅共	內地	海外
一部	金八錢	金拾壹錢
一年前金	金八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正六年五月廿八日印刷納本
大正六年六月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督敎女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉太郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

ponse to the request of the National Committee of the Y. W. C. A. of Japan for American secretaries.

Miss Ada Foll, who has been for seven years a teacher in Formosa, was introduced to the Committee. She has consented to help in the Y. W. C. A. in Yokohama until the latter part of June.

Miss Ragan sailed on the Empress of Russia May 19th. With her went Miss. Fuki Nomura, a daughter of Mrs. Michi Nomura, Treasure of the Yokohama Y. W. C. A., Miss Nomura is going for two years study at Dobb's Ferry.

The Yokohama association has sustained a great loss during the past month in the death of Mrs. E. W. Frazar, Vice-President of the Association. Mrs. Erazar has from the very beginning given much time and thought to the needs of the association, as well as to the needs of individual girls.

Miss Nannie B. Gains, President of Hiroshima Jo Gakko, who for years has been a member of the National Committee, was present at the meeting on May 12th and on Sunday, May 20th, thirty-two of the graduates of her school now living in Tokyo assembled at the Tokyo association for an afternoon meeting.

On Wednesday, May 9th, a Committee organized under the leadership of Miss Schereschewsky, called a meeting of the graduates of the various schools of Tokyo to present the needs of the Russian women and children, who have been driven out of their towns and villages before the retreating army. There were about two hundred and fifty girls present. Small books for the collection of money were distributed.

On the afternoon May 10th the Tokyo Y. W. C. A. gave a party for house maids. Sixty girls were present.

On May 4, 5, 7, and 8 the Woman's Missionary Society of the Japanese Church of Christ in Japan held a conference in the Tokyo building.

The Tokyo association has set apart the first Saturday of each month for a social time. Between eighty and one hundred girls have been present at the last two meetings. One the third Sunday afternoon of each month a religious meeting is held. At the meeting on May 20th, fifty girls were present.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XVI | JUNE, 1917 | NUMBER 6

Miss Clarissa Spencer, World's Secretary of the Y. W. C. A., and for the past two years Acting Executive of the Foreign Department of the National Board of the Young Women's Christian Association of the United States, and Miss Elizabeth Boies of the Department of Method of the National Board, were in Japan from May 10th to May 14th. They are on their way to Petrograd in response to a cable sent to Dr. John R. Mott, asking for two American women to start work for Russian women. Miss Boies had a large share in conducting work for employed women on the Zone during the exposition in San Francisco in 1915, and has recently returned from the border work, made necessary by the stationing of troops on the border between Mexico and the United States. They were guests at the regular meeting of the National Committee on May 12th. Mrs. McCracken, who is a member of the Pacific Coast Field Committee of the Y. W. C. A., and Mrs. Bigelow of Santa Barbara, Cal. were also present at the meeting. The Summer Conference Committee reported arrangements for two summer conferences, the Kobe dates July 17 to 24, the Sendai dates July 24 to 31. The Fukuoka Eiwa Jo Gakko Y. W. C. A. was affiliated with the National movement. Miss Emerson reported on the recent visit of herself, Miss Kawai and Miss Matthew to Osaka. She reported having met a Committee of pastors of the city, of their cordial welcome and helpful suggestions about the beginnings of the work there. Mrs. Hirooka invited several of her friends to meet Miss Kawai on one afternoon to hear about the plans for the future work of the Y. W. C. A. in Osaka. Mrs. Gleason, wife of the Y. M. C. A. secretary, entertained several of her friends at Sumiyoshi, and Miss Kawai and Miss Matthew spoke of the future plans. Dr. Hale, Miss Tristram, Mrs. Weakley, Miss Ward and many others were most kind and helpful in trying to find a house for the association and in making suggestions for the future. Miss Matthew reported that Miss Inez Crawford and Miss Esther Nixon have been appointed by the Foreign Department of the Y. W. C. A. in America to come to Japan in the Autumn of 1917 in res-

御用の節は『女子青年界』の廣告で見たと御申添下さい



後付一一

宮内省
各宮殿下
御買上八回

桑港萬國大博覽會銀牌受領

於博覽會共進會金、銀、銅牌廿餘回受賞

甲斐國産

御申越次第商品目錄進呈

水晶細工品

印篆刻
眼鏡一式
軸掛
裝身具
床置物
珠數

指環
中差
簪
櫛
根掛
エリ止
帯メ
守玉
ピン
カフス釦

印傳袋物

二ツ折札入
弗入
財布
莨入
手提
手袋
スクールバック

共紐
叺
御殿持
巻莨入
火の用心
文人持

一水晶印章篆刻幷に細工品共懇切を旨とし精々勉强仕り
一御好みに應じ如何樣にも確實に御調進可申上候

商標

玉泉堂

山梨縣甲府市柳町

電話百〇二番

振替口座東京五〇六四番

新刊

倉長巍著
ヨハネ傳五十講
定價 上 八十錢 並 五十錢 郵税 八錢

ポーター作 弘中つる子譯
パレアナ
原作一年ならずして二十版を重ぬ。面白く有益なる家庭小說。クリスマスの贈物に好適す。
表裝美麗 定價 八十錢 郵税 八錢

シムプソン著 中澤正七譯
人生の事實
著者十餘年の研究になりし好著なり。
定價 上 七十錢 並 五十錢 郵税 八錢

グリーソン著 武に眞代藏譯
山上說教
定價 五十錢 郵税 二錢

大井一郎著
耶蘇基督
定價 二十錢 郵税 四錢

エインズレー著 岩元三郎譯
神と我
定價 十五錢 郵税 二錢

バルト著 赤星仙太
我子の生立の記
定價 三十錢 郵税 四錢

バークレー著 岩村清四郎譯
教師及教授法
定價 二十錢 郵税 二錢

新しき傳道叢書
- 植村正久著「耶蘇の學校」定價 二錢
- 同上「人生と宗教」定價 三錢
- 天笠海軍大佐著「我が信仰と基督教」定價 六錢
- 山本工學士 谷津理學博士 大工原農學博士 共著「科學と信仰」定價 二錢

何れも趣味深く有益なる文學、時代に適當せる傳道小冊子なり

新しきトラクト
- 「眞の平和」
- 「眞の救」
- 「眞の敎」
- 「神との交通」(大江壽美子述)
- 「潔き家庭」(江原素六述)
- 「理想的社會」(石原素謙述)

定價 千部 壹圓五拾錢 (郵税共)

發行所 東京市京橋區明石町八番地 **日本基督教興文協會**

發賣所 警醒社、教文館、基督教書類會社、福音書店、丸善書店、岩波書店

Kubohama Store and Kudan Hill.

are inseparable.

Get Your Japanese Clothes.

Now !!

純日本趣味と何ともいへぬ
情緒の籠つた中形は
弊店に見に入らして下さい

呉服は九段の久保濱へ

御注文は

電話番町九二三番
振替東京八四四九番

何といふても他店にまねは
出來ません呉服は九段の久
保濱へ見に入らして下さい

女子青年界第拾四巻第六號（毎月一回一日發行）
大正六年五月廿八日印刷納本　大正六年六月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可